

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



平成 24 年度全日本少年少女武道錬成大会



第20回全日本銃剣道選手権大会

優勝 坂元誠教士七段 (静岡)





平成 24 年度全日本少年少女武道錬成大会

気合い張りつめる大道場 錬成の夏

平成24年度全日本少年少女武道錬成大会は、7月21日から8月12日まで

のうち、9日間にわたって、日本武道館で各種目が行われた。

全国から集まった延べ約1万7千名は、早朝から夕方まで、大道場で、基本錬成に、試合錬成に汗を流した。

▼弓道（7月21日）

今年の先陣を切ったのは弓道。基本錬成では徒手による射法八節を全員で行い、基本を確認。特別演武では坂本武彦教士八段らによる持的射礼が披露され、参加者は真剣に看取り稽古に励んだ。

試合錬成は男女とも3人立2手（4射）で行われ、6中以上が決勝位2チームが優秀賞を獲得した。

▼合気道（22日）

稽古錬成では第1部（小1・2）、第2部（小3・4）、第3部（小5・6）、第4部（中1～3）に分かれて、

本部道場指導部師範の指導で稽古に励んだ。

演武錬成では各団体が2分間で自由演武を披露。出場者は日頃の成果を発揮して、元氣よく演武した。

最後に植芝充央本部道場長代行の総合演武が行われた。

▼剣道（28・29日）

出場選手全員の入場行進、開会式が終わると、会場一杯に広がって準備体操と素振りを行った。

試合錬成は5人制の団体戦で基本判定試合と一本勝負の試合が、準々決勝からは三本勝負の試合が行われた。各試合場で熱戦が展開し、気合いの入った掛け声が響き渡った。

▼空手道（8月4日）

空手道は参加者数の増加を考慮し、本年度から各部門で入賞数を倍増した。開会式の後、基本錬成、模範演武と続き、試合錬成となった。試合錬成では、形競技の上位16チームが決勝トーナメントへ進出し、組

手競技で競い合った。

闘志溢れる試合の後、勝っても負けても爽やかに握手を交わす子供たちの姿に観客が拍手で称えた。

▼柔道（5日）

基本錬成では、まず向井幹博七段の指揮のもと棟田康幸五段、金岡真二四段、通場千里三段により模範演武と技の解説が、続いて、指導者との稽古が行われ、参加者は大人を相手に力一杯技を掛けていた。

試合錬成は、低学年の部（3・4年）と高学年の部（5・6年）に分かれて5人制の団体戦が行われ、各ブロックの優勝を目指して白熱した試合が展開された。

▼銃剣道（8日）

入場行進、開会式に続いて、高校生による銃剣道基本技・応用技が披露された。その後、参加者は銃剣道、短剣道それぞれの合同錬成を小学低学年、小学高学年・中学生に分かれて行った。

試合錬成では、銃剣道・短剣道と

もに学年別の団体戦と個人戦が行われた。人数は少なくとも、裂帛の気合が大道場一杯に広がった。

▼少林寺拳法（11日）

基本錬成では荒井章士准範士六段の指揮で、全員で基本の突き蹴りと天地拳第一系を元氣一杯に行なった。

演武錬成は、学年・段級位別に分かれて、単独・組・団体の演武を披露し、日頃の成果を存分に発揮した。

最後に稽古錬成で突きや蹴りなどの基本技を、ポイントを教わりながら稽古して、大会は終了となった。

▼なぎなた（12日）

夏の錬成大会の掉尾を飾るのは、なぎなた。開会式、準備体操に続いて、参加者が大道場に広がっての基本錬成を行った。競技は、小学1年生から中学3年生までの演技競技と、小学3年生から中学3年生までの試合競技がトーナメント戦で行われた。



植芝守央合気会理事長



総合演武 植芝充央本部道場長代行



ちかいのことば 岡本昭人・川崎樹（泉州武育会）



7月22日

合気道

161 団体
2,502 名参加





奥田幹生日本武道館常任理事



ちかいのことば 田村祐磨・大濱綾香 (埼玉県秩父第一中学校)

特別演武=前から飯島千代子、張替謙一、桑田秀子、坂本武彦の四教士八段

7月21日

弓道



86 団体
1,037 名参加





武安義光全日本剣道連盟会長



松永光日本武道館会長



公開演武「木刀による剣道基本技稽古法」(調布市剣道連盟)

元立=箕輪聖子、掛り手=(28日)秋本万里子・秋本由布子・瀬川剛史、(29日)藤田航洋・箕輪祥乃・瀬川剛史(写真は28日)



ちかいのことは (29日)
田淵優斗 (九思剣友会)



ちかいのことは (28日)
佐藤泰 (錬心館道場)



7月28・29日

剣道

716 団体
4,916 名参加





島村宜伸日本武道館常任理事 笹川堯全日本空手道連盟会長



模範演武=男子団体形「ウンスー」
左から、相馬昂翔、杉野拓海、在本幸司



ちかいのこば 林晃大(群馬県・了右館)



8月4日

空手道

156 団体
2,337 名参加





小幡泰弘文部科学省スポーツ・青少年局競技スポーツ課国際スポーツ官 関根忍全日本柔道連盟評議員



模範演武・技の解説

ちかいのことば 鈴木盛篤(大多喜町少年柔道クラブ) 指揮者=向井幹博七段、演武者=棟田康幸五段、金岡真二四段、通場千里三段



8月5日

柔道

314 団体
3,266 名参加





白井日出男日本武道館理事長 酒井健全日本銃剣道連盟会長



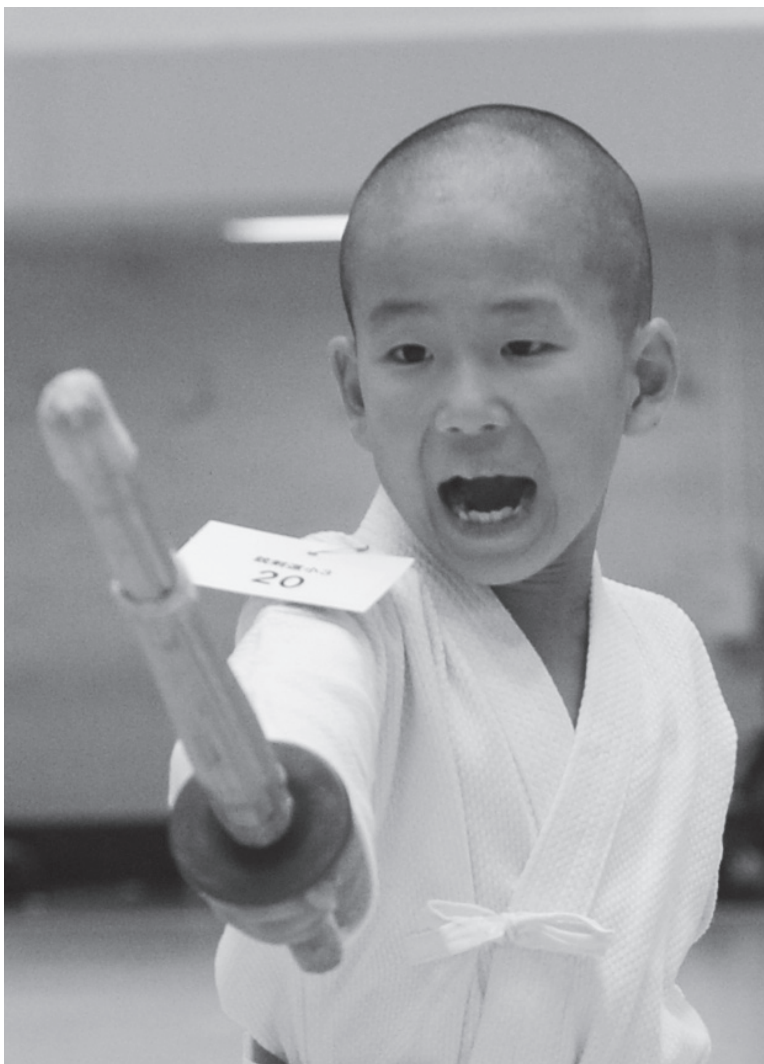
ちかいのことば 浅田忠治
(福島市銃・短剣道スポーツ少年団)

特別演武＝銃剣道基本技・応用技
澁谷悠杜・後藤久美子 (宮城県・南郷高校)

8月8日

銃剣道

39 団体
212 名参加







新井庸弘少林寺拳法連盟会長 宗由貴少林寺拳法グループ総裁



模範演武＝新井章士准範士六段・田中由喜大拳士五段



鎮魂行 主座＝大賀美凜（埼玉県）



8月11日

少林寺拳法

203 団体
1,772 名参加





佐藤浩市全日本なぎなた連盟会長



基本練習 指揮＝我山千枝子教士



ちかいのことば 三浦里帆
(愛知県・弥富市なぎなた連盟)

8月12日

なぎなた

128 団体
950 名参加





【北海道】 丹羽りさ (オホーツク中湧別道場)
【青森県】 鹿内靖成 (青森道場)
【岩手県】 後藤凜翔・本名弘忠 (多田塾奥州道場)
【福島県】 野崎将平・本田翔也・佐藤綾 (合気道須賀川道場)
【茨城県】 野上裕都・岩間稔・齋藤清香・武藤由佳 (ひたちなか市合気道少年団)、長谷川理音 (取手市合気道スポーツ少年団)、海老根孔明 (東海合気道少年団)、篠崎彩花・河野竜也・岡澤伸哉・齋藤麟・川崎陸実 (岩間合気道スポーツ少年団)、小川原綾夏 (つくば牛久合気道友会)、根田直子 (ヨークカルチャー日立ジュニア合気道)、三浦音緒・福地美歩・小野晶俊 (水戸市合気道スポーツ少年団)
【栃木県】 安西彩夏・小暮美月・安西涼哉・関根怜花・HARRANDELL 快・関根彩予 (佐野合気道 SHINWAKAI)
【埼玉県】 品川輝 (日高市合気道同好会)、臼倉真輝・白倉学・日浅圭人 (大成合気道会)、茂木睦生 (合気道健武館)、森彩乃・富永徹平・佐野優花・佐野直花 (合気道大宮道場)、宮崎麻帆・小野塚涼介 (浦和合気会)、茂木優希・高崎悦郎 (合気道修練道場自然館)、山田知輝・柳田達也・伊藤ひなの・堀口結生 (合気道浦和尾又道場)、大澤龍弥 (合気道光和道場)、上遠野涼我 (合気道明心会)、渋谷茉莉子・渋谷友莉菜 (狭山市合気道教室)、遠藤智仁・西島叶子・細山田遥花 (入間幸武館道場)、カツヘミ・石田唯人・井口晴太・小堀翼・村木善知 (合気道研心会)、持木大河 (蓮田合気会)、宮下日向・岡本さち (志木合気会)、中屋一希・豊島由子・原嶋諒・長谷部友花 (合気道志優館)、荒井風音 (合気道川越道場)、関根花月・佐野綾香・金谷梓 (志陽館)、服部花音 (新所沢合気道同好会)、熊野まゆ (蔵合気道会)、永幡萌 (白岡合気会)、佐藤友香・鈴木一誠・松本海音 (合気道越谷道場)、小和瀬匠 (合気道川島町同好会)、阿部夏月 (神明塾)
【千葉県】 松井陽佑・松浦一希・野崎義晶・秋葉翔哉・安田幸広 (明清会白井道場)、村杉凜音 (合気道誠氣会)、森田聖人 (安房館山道場)、加瀬沙耶佳 (銚子合気道会)、大久保丈翔・森本多香子 (合気道れんしん会)、谷口夢沙志・川島加維 (合気道松心館)、鈴木愛・宮間大景 (八千代市合気道連盟)、泉恭平 (八街合気道友会)、細川裕樹・成田優佳 (合気道花見川道場)、岸田夢明 (高根台カルチャーセンタージュニア合気道)、木村陽真 (流山合気会)、外館祐希・福島一輝 (千葉市立椿森中学校合気道部)、渡邊萌・谷津柚羽 (千葉市合気道都スポーツ少年団)、根本大地・石垣蒼汰・横井尊紀 (合気道弘龍會明心館道場)、齋藤雄斗・大嶋由菜・大島世伊良 (我孫子市合気道スポーツ少年団)、原田一希 (千葉市武道館合気道スポーツ少年団)、綿貫汐音・渡部瑠楓 (山武合気道友会)、及川静歩・樋口怜那 (流山合気道同好会)、神保伶央・大場愛莉 (柏合気会少年部)、佐々木捷人・有賀夏海 (船橋合気会)、加藤輝流 (富里合気道友会)
【東京都】 斉藤愛海・大久保龍佑 (立川市合気道会)、平川典雅 (鐘ヶ淵合気道クラブ)、岡部風花・小山歩・熊木彩伽 (中野区合気道会)、国分勇佑 (城東誠和会)、吉野友郎 (日本武道館武道学園)、玉城千春 (鷹の台合気道同好会)、轟幸祐・佐藤駿・中西葵・春山裕美 (穎明館中学高等学校合気道部)、見須帆南・石垣宏花・木下真悠 (品川区立荏原平塚学園)、酒井貴義・和田宇弘・三谷泰加・古田悠・新関春日・川本湧湖・野崎海・濱野風・福井秀宜・可知龍・石井俊希・坂本真結子・宇賀神虎乃介・井ノ口輝宙・神保有為子・鈴木由莉子・井ノ口月雫・新関礼 (月窓寺道場)、成田紀紀・山田真路 (仙川合気道春風会)、渡邊太稀 (武蔵中学校合気道部)、岩井勇太・加藤千夏 (合気道順風会)、並澤あゆみ (よみうりカルチャー恵比寿)、野中康平・伊勢美奈海 (東急セミナー BE 青葉台合気道教室)、西山拓真 (西馬込合気道会)、谷佳薫 (大森第三中学校合気道会)、石橋京太郎・窪田晃大・八橋淑史 (東急セミナー BE 雪ヶ谷合気道教室)、斉藤資高・須藤祐哉 (大田区合気道会)、クリッピング デルルイス・小藤直輝・沖野康輔・福岡亜美・井上恭介 (祖師谷合気会)、松田晴也・平林依桜・山口竜也 (板橋区合

気道連盟)、穂坂真花・内田竜介 (調布合気道会)、藤枝萌美・渡邊篤志 (合気道心和会)、瀧澤柊七 (合気道石田塾)、原田日和 (江戸川環七合気道クラブ)、名雪絢子・近藤愛恵・名雪琴子 (葛飾合気会)、野間琴絵 (合気道自由が丘道場)、門脇雅哉 (合気道進藤道場)、江澤実紀 (東大和市合気道会)、落合理名 (荻窪合気道同好会)、田村草太・岩井公輝・村田浩康・久保田月野 (新小岩合気会)、小澤里菜 (花小金井サン合気道教室)、荒木信輝・玉井航世・黒木拓仁・嶋村佳士・小山久仁・吉田信平・池本凜太郎 (荒川合気会)、相馬和典 (よみうりカルチャー町田合気道教室)、田代くるみ・山田千紜・石山未苑 (杉並合気会)、井上直見・坂元丈琉・坂元琉星 (清沼館)、佐々木英慈・佐々木愛純 (東村山シダックスカルチャーセンター)、谷口琉・遠藤凜 (仲池合気道同好会)、島崎七海・島崎彩花・木村壮一 (明清会)、丸山晃太郎・矢嶋泉穂 (合気道三澤塾)、大信亮也・三好悠月 (新宿スポーツセンター)、羽鳥剛司 (合気道練馬総合体育館道場)、小林夏大・武藤雄飛 (合気道土井道場)、渡邊一世・亀川司 (本部道場少年部)、吉塚真人・橋本涼乃・嶋田圭吾・土屋昂三 (世田谷合気道同好会)、吉野夏貴 (渋谷区合気道同好会)、石毛未来 (足立合気会)、上村俊揮・橋本大翼 (八広合気道クラブ)、小川未稀 (合気道両国魂友会)、浅野航・鉄羅晃大 (多摩川合気道会)、木村陸朗 (日黒学院中学校)、土井瑠璃乃 (合気道宇宙の会)、門田達 (東村山市合気道会)、角田英俊 (明清会)、半貫淳久・大泉元希 (道学館)、小滝航平・林七海・神野羽奏・清水翔斗・大杉律葉・栗原南海人・藤野朋志・小川幸介・島田裕太・神野泰征・平井爽乃・山田太郎 (合気道新川塾)
【神奈川県】 福富由梨・中澤唯人 (無門館)、廣石貴昭 (鶴岡八幡宮研修道場合気道科)、笹岡海優・二村秋之助 (青葉塾道場)、阿部珠季 (横浜南合気会)、石倉雅也 (合気道唯心館杉野道場)、山口真輝・新井もも香 (国立印刷局合気道道場)、片桐勇也 (合気道白灯館道場)、関京也・高綱楓佳 (秦野武産合気会)、松本響・井田詩織 (合気道春水道場)、高橋明里・竹下純平・竹下峻平 (葉山町合気会)、長井一樹 (南林間カルチャー)、満仲颯志 (桜台合気道クラブ)、杉本涼輔 (合気道高城道場 合気道わんぱく道場)、西野颯子・西野聡美・本間千寛・安藤帆風・石井希鈴 (春陽会)、渡辺飛彬 (相模原カルチャーセンター)、宮島到吾 (横浜国際合気道会)、長谷川丈・増井和美・岩澤雄太・千葉大和・彌永空良 (寒川合気会)、中村望史・塩地由佳子・大石優希 (合気道幸徳会)、幡谷優磨 (二宮合気会)、サムスタントン・筒井日和 (城下町合気道 小田原道場)、齋藤洋子・前野由依 (合気道相模和道会)
【新潟県】 小林蒼央・小林愛結 (新潟合気会新潟みなと道場)、田辺あかり・中村花野・中村美羽・小林聖美・伊藤萌 (合気道新潟県央会)
【山梨県】 藤橋勇太・折居壮一郎 (浅川教室)、平出記海 (甲府ジュニア合気道)
【静岡県】 早川真生・篠原武琉 (合気道石苾塾童夢の会)、児玉啓彰 (裾野合気会)
【愛知県】 石川壮達 (大治町合気道スポーツクラブ)
【三重県】 岸野裕紀・野島香大 (鈴鹿合気会倉塾)
【大阪府】 岡本昭人・川崎樹・前田美咲・木村彩乃・澤実乃里・岡本悠花・河合音薫・近藤千夏・丹羽史・東亮太・葛籠凌・中村馨・近藤紗雪・黒田雅衣・近藤稜祐・河合花優・河合志優・丹羽悠・東夏希・近藤海聖 (合気道泉州武育会)、西川遙香・齋藤岳巨 (合気道正勝会)
【奈良県】 相馬諒祐・朝田拓海・米田琢人・永尾浩貴 (合西大和会)、中沼祥 (奈良合気会三練会石川道場)
【和歌山県】 北尾航大 (田辺道場)
【岡山県】 本谷みなみ (倉敷市立西中学校合気道部)、神田大地 (倉敷天領塾)
【広島県】 大林巧幹・影山りさ (合気道北平塾ひとみ幼稚園長束道場)
【香川県】 吉川はるか (合気道立志館)、齋藤瑞希・川南昇太・関子実優・関子真優・矢野乃亜 (高松合気会)

弓 道

7月21日開催

男子の部

| 優秀賞 | 優良賞 | 敢闘賞 | 技能優秀賞 |
|---------------------------|--|--|------------------------------|
| 北犬飼中 A (栃木) 増穂中 A (山梨) | 豊郷中 B (栃木) 鹿沼市立東中 B (栃木) | 鳳来中 B (愛知) 平坂中 A (愛知) 清原中 A (栃木) 豊郷中 A (栃木) | 清原中 A (栃木) 松戸市立第六中 A (千葉) |
| 努力賞 | 松戸市立第六中 A (千葉)、岩舟中 B (栃木)、城北学園 A (東京)、富士松中 C (愛知)、竹来中 A (茨城) | | |

女子の部

| 優秀賞 | 優良賞 | 敢闘賞 | 技能優秀賞 |
|-----------------------------------|---|--|--------------------------|
| 鎌倉女子大学中等部 B (神奈川) 加治木中 B (鹿児島) | 豊郷中 A (栃木) 今市中 C (栃木) | 清原中 A (栃木) メリノール女子学院中 A (三重) 石和町弓道スポーツ少年団 (山梨) 武中 A (鹿児島) | 朝日中 A (愛知) 清原中 A (栃木) |
| 努力賞 | 朝日中 A (愛知)、今市中 A (栃木)、清真学園 A (茨城)、市立沼津中 A (静岡)、富士松中 C (愛知)、清原中 B (栃木) | | |

剣 道

7月28日開催

| | 優秀賞 | 優良賞 | 敢闘賞 | |
|--------|------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 第1ブロック | 梅ヶ香剣友会 (福島) | 国分寺剣友会 A (東京) | さくら会少年剣道部 A (岐阜) | 東松館剣道部スポーツ少年団 (東京) |
| 第2ブロック | 柏武道館 (千葉) | 青梅中央道場 (東京) | 三劍会 (大阪) | 相模野剣友会 A (神奈川) |
| 第3ブロック | 東松館道場 A (東京) | 結城尚武館 B (茨城) | 警視庁府中警察署少年剣道部 (東京) | 京都太秦少年剣道部 B (京都) |
| 第4ブロック | 京都太秦少年剣道部 A (京都) | 神戸枝吉己勝館 (兵庫) | 久居剣道スポーツ少年団 (三重) | 長野剣道スポーツ少年団 A (長野) |
| 第5ブロック | 横浜戸塚 (神奈川) | 仏生山スポーツ少年団剣友会 (香川) | 豊中小曾根剣友会 (大阪) | 新座剣友会 (埼玉) |
| 第6ブロック | 白川台少年剣修会 (兵庫) | 水海道剣道教室 (茨城) | 凌雲館緑剣道場 A (栃木) | 林田剣道教室 (岡山) |
| 第7ブロック | 結城尚武館 A (茨城) | 練馬区剣道連盟 (東京) | 山梨健心館 A (山梨) | 益水館 (茨城) |
| 第8ブロック | いばらき少年剣友会 A (茨城) | 草野剣道スポーツ少年団 (福島) | 東松館道場 B (東京) | 千石剣道クラブ (大阪) |

7月29日開催

| | 優秀賞 | 優良賞 | 敢闘賞 | |
|--------|---------------------|--------------------|---------------------|----------------|
| 第1ブロック | 菅原剣士会 (神奈川) | 瀬谷区剣道連盟南瀬谷支部 (神奈川) | 絃武館 A (栃木) | すずかけ剣友会 A (兵庫) |
| 第2ブロック | 雄信館内山道場 A (秋田) | 生駒剣友会 (奈良) | 奈良尚武館 (奈良) | 養徳館 (岡山) |
| 第3ブロック | 大津少年剣道クラブ A (熊本) | 竹の子剣道クラブ A (大阪) | 自求館道場 (滋賀) | 天武館 (熊本) |
| 第4ブロック | 広島西風道場 (広島) | 府中剣誠会 (東京) | 桶川剣友会 (埼玉) | 都岡剣友会 A (神奈川) |
| 第5ブロック | 穴師剣道会 (大阪) | 能勢武勇館 (兵庫) | 揚武館 (香川) | 権堂少年剣友会 B (長野) |
| 第6ブロック | 豊中寺内剣友会 (大阪) | 大村市剣道協会 (長崎) | 青島剣道スポーツ少年団 A (静岡) | 新宮剣志館 (兵庫) |
| 第7ブロック | 和歌山武道館剣道錬成クラブ (和歌山) | 萌木剣道教室 A (東京) | 十河剣道スポーツ少年団 (香川) | 北本剣士会 (埼玉) |
| 第8ブロック | 大道塾 A (沖縄) | 泉大津少年剣道部 (大阪) | 沖縄警察署スポーツ少年団 A (沖縄) | 佐貫清心会 A (千葉) |

空手道

8月4日開催

小学1・2年生の部

| 優秀賞 | 努力賞 |
|--|--|
| 武蔵野空手道場教空会 (東京) 空手道拳志会 (東京) | 協会川口 (埼玉) 正武館空手道場 (東京) |
| 優良賞 | 昇政塾A (千葉) |
| 鴻志会養正館A (静岡) 拳勝館六会支部A (神奈川) | 日本空手道 拳勝館 (神奈川) |
| 敢闘賞 | 日本空手道泊親会川崎A (神奈川) |
| 全日本空手道連盟剛柔会 誠明館 (神奈川) 結城市空手道連盟 (茨城) 木更津聖嘉館 (千葉) 明桜塾A (千葉) | 鴻志会養正館B (静岡) 麻布十番空手道教室皆思道場A (東京) 拳勝館鎌倉支部 (神奈川) |

小学3・4年生の部

| 優秀賞 | 努力賞 |
|--|---|
| 全日本空手道一友会A (東京) 全日本空手道一友会B (東京) | 日本空手道 拳志会B (東京) 糸東流養秀館本部 (大阪) |
| 優良賞 | 福源院道場A (山梨) 鴻志会養正館C (静岡) |
| 維新会館 大民塾A (静岡) 結城市空手道連盟 (茨城) | 日本空手道場会川口マリン空手クラブB (埼玉) |
| 敢闘賞 | 空手道 正真館B (静岡) 日本空手道泊親会川崎B (神奈川) 国際松濤館空手道連盟相模原支部 (神奈川) |
| 武蔵野空手道場教空会 (東京) 全日本空手道連盟剛柔会 誠明館A (神奈川) 明桜塾D (千葉) 国際勝正館空手道総本部道場 (千葉) | |

小学5・6年生の部

| 優秀賞 | 努力賞 |
|--|-------------------------------------|
| 全日本空手道一友会B (東京) 全日本空手道一友会A (東京) | 剛柔会相模館B (神奈川) 全日本空手道一友会C (東京) |
| 優良賞 | 空手道 正真館A (静岡) 清原空手道スポーツクラブA (栃木) |
| 拳勝館六会支部A (神奈川) 結城市空手道連盟A (茨城) | 松濤館流空手道仁悠会A (埼玉) |
| 敢闘賞 | 日本空手道泊親会川崎A (神奈川) |
| 正武館空手道場A (東京) 英空会 (神奈川) 明桜塾A (千葉) 空手道一心塾 (千葉) | 空手道 正真館B (静岡) 正統唐手成徳会C (東京) |

中学生の部

| 優秀賞 | 努力賞 |
|---|--|
| 維新会館 大民塾B (静岡) 維新会館 大民塾A (静岡) | 日本空手道泊親会・翔雄館A (東京) 宮代空手スポーツ少年団 (埼玉) |
| 優良賞 | 正武館空手道場A (東京) 謙交塾大和田道場C (東京) |
| 剛柔会正剛道場A (静岡) 全日本空手道一友会A (東京) | 順道館A (東京) |
| 敢闘賞 | 清原空手道スポーツクラブA (栃木) 木更津聖嘉館B (千葉) 武蔵野空手道場教空会A (東京) |
| 英空会 (神奈川) 三重県糸東会 中勢地区C (三重) 全日本空手道連盟剛柔会 誠明館B (神奈川) 正武館空手道場B (東京) | |

柔道

8月5日開催

| | 優秀賞 | 優良賞 | 敢闘賞 |
|--------------|---------------|----------------|-------------------------------|
| 第1ブロック (高学年) | 春日柔道クラブ (東京) | 大原町少年柔道教室 (千葉) | 土浦市体育協会柔道部 (茨城) 舟川柔道塾 (埼玉) |
| 第2ブロック (高学年) | 古賀塾 (神奈川) | 清水町柔道会 (静岡) | ダイコロ少年柔道教室 (大阪) 助昭徳館 (栃木) |
| 第3ブロック (高学年) | 橿原市柔道クラブ (奈良) | 五所川原柔道少年団 (青森) | 和田道場 (高知) 羽島柔道少年団 (岐阜) |
| 第4ブロック (高学年) | 朝飛道場 (神奈川) | 愛柔会 (神奈川) | 松前柔道塾 (東京) 高尾警察少年柔道部 (東京) |
| 第5ブロック (低学年) | 臥牛館道場 (東京) | 愛柔会 (神奈川) | 稲沢柔道会 (愛知) 岡田道場 (広島) |
| 第6ブロック (低学年) | 舟川柔道塾 (埼玉) | 小川道場 (神奈川) | 東福岡柔道教室 (福岡) 羽田野道場 (愛知) |
| 第7ブロック (低学年) | 古賀塾 (神奈川) | USA s.j.c (大分) | 鶴田町柔道少年団 (青森) 川口道場 (福井) |
| 第8ブロック (低学年) | 朝飛道場 (神奈川) | あすなろクラブ (大阪) | 広畑柔道教室 (兵庫) 紅柔道少年団 (千葉) |

銃剣道

8月8日開催

団体戦

| 学年 | 優秀賞 | 優良賞 | 敢闘賞 | |
|---------|--------------------|-----------------|------------------|---------------|
| 小学5・6年生 | 名寄ピヤシリ銃剣道少年団 (北海道) | 大村少年銃剣道クラブ (長崎) | 七ヶ浜銃剣道少年団 A (宮城) | 滋賀県選抜 (滋賀) |
| 中学生 | 今津町銃剣道少年団 (滋賀) | 本間道場 (神奈川) | 小奴可剣友会 A (広島) | 松山銃剣道クラブ (愛媛) |

銃剣道個人試合錬成

| 学年 | 優秀賞 | 優良賞 | 敢闘賞 | |
|---------------|-------------------|------------------|---------------------|-------------------|
| 小学1・2年生 | 佐藤大地 (元気道場) | 近藤桃子 (元気道場) | 谷 誓哉 (名寄ピヤシリ少年団) | 松本羽響 (春光銃剣道クラブ) |
| 小学3年生 | 高田 尚 (名寄ピヤシリ少年団) | 岩淵咲也 (春光銃剣道クラブ) | 小針玲音 (春光銃剣道クラブ) | 岸 晃生 (本間道場) |
| 小学4年生 | 寒河江瑞樹 (名寄ピヤシリ少年団) | 内藤介斗 (勝北銃剣道クラブ) | 高山直樹 (体道会銃剣道クラブ) | 小幡未来 (七ヶ浜少年団) |
| 小学5・6年生 | 田中真太朗 (九徳塾) | 高田 権 (名寄ピヤシリ少年団) | 安藤直斗 (香川銃剣道ジュニヤクラブ) | 寒河江優斗 (名寄ピヤシリ少年団) |
| 小学5・6年生 女子 | 小林夏海 (今津町銃剣道少年団) | 柴原幸佳 (本間道場) | 澤田百花 (伊勢原) | 土方冴恵 (体道会銃剣道クラブ) |
| 中学1年生 | 芝原正康 (本間道場) | 桜井悠斗 (七ヶ浜銃剣道少年団) | 稲見将汰 (勝北銃剣道クラブ) | 渡邊紫音 (共栄館道場) |
| 中学2・3年生 | 諸隈 快 (大村少年銃剣道クラブ) | 平田秀幸 (今津町銃剣道クラブ) | 小林 翔 (今津町銃剣道クラブ) | 岡本共平 (今津町銃剣道クラブ) |
| 中学生女子 | 山本奈々子 (勝北銃剣道クラブ) | 酒井萌菜 (名倉銃剣道クラブ) | 中原理奈 (小奴可剣友会) | 小松和佳 (山口県ジュニヤクラブ) |

短剣道個人試合錬成

| 学年 | 優秀賞 | 優良賞 | 敢闘賞 | |
|---------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 小学1・2年生 | 松本羽響 (春光銃剣道クラブ) | 小泉孝輔 (博真館) | 澤田花穂 (伊勢原支部) | 小針心菜 (春光銃剣道クラブ) |
| 小学3・4年生 | 高橋亜紗日 (春光銃剣道クラブ) | 遠藤 響 (体道会銃剣道クラブ) | 高田 尚 (名寄ピヤシリ少年団) | 吉見風香 (今津町銃剣道クラブ) |
| 小学5・6年生 | 澤田夢花 (伊勢原) | 高田 柊 (名寄ピヤシリ少年団) | 澤田百花 (伊勢原) | 坂詰遙聖 (供栄館吉川道場) |
| 中学生 | 安西純平 (本間道場) | 小笠原陸 (本間道場) | 渡邊紫音 (共栄館道場) | 松浦豪士 (春光銃剣道クラブ) |

なぎなた

8月12日開催

演技競技の部

| 学年 | 優秀賞 | 優良賞 | 敢闘賞 | |
|---------|----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 小学1・2年 | 洲之内桃花・神山美完 (愛媛・北条なぎなたスポーツ少年団) | 佐久間琴子・小林美菜 (千葉・君津市なぎなた連盟) | 長嶋春優・梅津瞳子 (千葉・瑞穂なぎなたスポーツ少年団) | 主浜夏花・南館日奈太 (岩手・一戸町なぎなた協会) |
| 小学3・4年A | 小針輝人・日鷹大智 (奈良・奈良市なぎなた連盟) | 小嶋奏・今井ここの (愛知・愛知武道館クラブ) | 前川沙穂・菘乃菜 (奈良・奈良市なぎなた連盟) | 六車綾乃・奥田莉生 (奈良・川西スポーツクラブ) |
| 小学3・4年B | 林由季菜・松田もえ (奈良・奈良市なぎなた連盟) | 苗木ひかる・金城実彩葵 (奈良・奈良市なぎなた連盟) | 相葉有里花・榎本遙斗 (奈良・奈良市なぎなた連盟) | 桜庭彩・長嶋姫那 (千葉・瑞穂なぎなたスポーツ少年団) |
| 小学5・6年A | 石垣綾香・松川春乃 (宮城・多賀城なぎなた連盟) | 赤羽愛翔・中野蓮 (長野・松本市田川なぎなたスポーツ少年団) | 岩本里佳子・岩崎悠陽 (山口・江の浦なぎなたスポーツ少年団) | 若松舞・山田真緒 (愛知・弥富市なぎなたクラブ) |
| 小学5・6年B | 落合凜星・伊東歩花 (三重・稲生クラブ) | 安次嶺心・石原かのん (沖縄・西原なぎなたクラブ) | 鈴木悠理愛・櫻田暖乃 (宮城・榴岡なぎなた教室) | 鷹嘴陽夏・田村百花 (岩手・みたけなぎなたスポーツ少年団) |
| 小学5・6年C | 榎本航大・楨凌汰 (奈良・奈良市なぎなた連盟) | 干場咲良・村上沙也佳 (奈良・奈良県なぎなた連盟) | 瀧澤李穂・佐々木つづる (福島・会津なぎなたスポーツ少年団) | 渡邊風咲・落合峻 (静岡・富士市なぎなた連盟) |
| 中学A | 上野凜花・齋藤俊慧 (福島・会津なぎなたスポーツ少年団) | 加藤己由希・伊藤佑菜 (愛知・弥富市なぎなた連盟) | 今本真裕子・堂村碧 (大阪・清教学園中学校) | 今井琉誠・平田基 (埼玉・上尾市遊友クラブ) |
| 中学B | 佐藤里咲・二瓶千沙都 (福島・会津なぎなたスポーツ少年団) | 花島望音・宮本佐紀恵 (富山・南砺市立福野中学校なぎなた部) | 遠藤奈々帆・柴崎彩乃 (山形・山形市立第四クラブ) | 武井梓穂・鈴木麻菜美 (神奈川・神奈川県立神奈川大学附属中学校) |
| 中学C | 西嶋聖良・織田奈月 (福井・福井なぎなたクラブ) | 菅生美貴・齋藤萌 (宮城・岩出山中学校なぎなた部) | 成田結唯・鳴瀬裕美 (福島・会津なぎなたスポーツ少年団) | 大矢真未・上田小百合 (福島・会津なぎなたスポーツ少年団) |
| 中学D | 三輪菜々子・吉田未紅 (愛知・弥富市なぎなた連盟) | 石橋春奈・宮武佑希 (香川・琴平中学校) | 藤田飛翔・山口明佳音 (福島・会津なぎなたスポーツ少年団) | 谷内田里菜・高山智恵 (神奈川・神奈川県立神奈川大学附属中学校) |
| 中学E | 落合瑠那・水谷理乃 (三重・稲生クラブ) | 鎌田友里・千葉沙織 (宮城・岩出山中学校なぎなた部) | 野里美沙樹・上平芽生 (岩手・一戸町立一戸中学校) | 中嶋彩佳・瀧口理子 (福井・福井なぎなたクラブ) |
| 中学F | 石原葉月・西平春奈 (和歌山・和歌山県なぎなた連盟) | 永尾日向子・北希織 (東京・中野区なぎなた連盟) | 江橋実果・高村恵梨奈 (千葉・佐倉市なぎなた連盟) | 佐藤光夏・安食麻理奈 (島根・平田クラブ) |
| 中学G | 鈴木利奈・三浦里帆 (愛知・弥富市なぎなた連盟) | 二上かのこ・田中里彩 (東京・江東区なぎなた連盟) | 木原万由子・山越理央 (福井・鯖江なぎなたクラブ) | 宮森那知・花見佳奈子 (福島・会津なぎなたスポーツ少年団) |

試合競技の部

| 学年 | 優秀賞 | 優良賞 | 敢闘賞 | |
|----------|--------------------------------|-----------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| 小学3年 | 大塩未緒 (奈良・奈良市なぎなた連盟) | 齋ありさ (東京・江東区なぎなた連盟) | 今井このの (愛知・愛知武道館クラブ) | 徳田望衣 (香川・高瀬なぎなた同好会) |
| 小学4年 | 田村百花 (岩手・みたけなぎなたスポーツ少年団) | 安藤鈴華 (岡山・養徳館) | 砂塚希美 (東京・豊島区なぎなた連盟) | 菟乃菜 (奈良・奈良市なぎなた連盟) |
| 小学5年 | 山根千慶 (岡山・養徳館) | 金野碧 (東京・江東区なぎなた連盟) | 笠原彩叶 (埼玉・入間市あおぞらスポーツ少年団) | 永山結衣 (東京・江東区なぎなた連盟) |
| 小学6年 | 前田愛梨 (愛知・愛知祥南なぎなたクラブ) | 名和菜 (大分・大分東部なぎなたスポーツ少年団) | 神山愛姫 (愛媛・北条なぎなたスポーツ少年団) | 干場咲良 (奈良・奈良県なぎなた連盟) |
| 中学1年 | 村上こと乃 (兵庫・伊丹スポーツセンターなぎなた教室) | 安藤瑠音 (岡山・養徳館) | 新本みゆ (和歌山・和歌山県なぎなた連盟) | 細川瞳 (岐阜・大垣市なぎなた少年団) |
| 中学2年 | 二上かのこ (東京・江東区なぎなた連盟) | 田中里彩 (東京・江東区なぎなた連盟) | 南出成美 (和歌山・和歌山県なぎなた連盟) | 金野夏月 (東京・江東区なぎなた連盟) |
| 中学3年 | 三浦里帆 (愛知・弥富市なぎなた連盟) | 佐藤里咲 (福島・会津なぎなたスポーツ少年団) | 川野柚奈 (大分・大分東部なぎなたスポーツ少年団) | 齋藤萌 (宮城・岩出山中学校なぎなた部) |
| 小学男子3・4年 | 河本日向 (兵庫・伊丹スポーツセンターなぎなた教室) | 安食拓海 (島根・平田クラブ) | 小針輝人 (奈良・奈良市なぎなた連盟) | 寒川慎也 (和歌山・和歌山市藤漢なぎなたクラブ) |
| 小学男子5・6年 | 槇凌汰 (奈良・奈良市なぎなた連盟) | 宮田学歩 (愛知・愛知祥南なぎなたクラブ) | 主浜命 (岩手・やまびこなぎなたスポーツ少年団) | 中野蓮 (長野・松本市田川なぎなたスポーツ少年団) |
| 中学男子 | 服部将大 (愛知・弥富市なぎなた連盟) | 田淵純貴 (大阪・汎愛チューリップクラブ) | 戸田修平 (長野・三郷クラブ) | 坂上智之 (兵庫・伊丹スポーツセンターなぎなた教室) |

◇中学生段外の部 = 小川裕生・新留将矢 (愛知今伊勢道院拳友会) 梅川郁実・前島涼香 (東京・富士見丘学園) 菅野明日美・伯耆原未来 (千葉茂原道院拳友会) 方波見京香・熱田真須美 (茨城・清真学園) 古川璃々子・蛭川寧々花 (東京・富士見丘学園) 金子文樹・横松大雅 (東京・加住小中学校) 坂伊織・早川可子 (茨城・清真学園) 加賀谷秋太・鈴木麗央 (東京・板橋菩提道院拳友会) 増山由羅・平雄大 (埼玉・東松山道院拳友会) 蓮子秀美・佐藤優果 (東京・富士見丘学園) 田島広太郎・佐藤賢斗 (愛知・一宮中部道院拳友会) 中島秀越・依田啓新 (東京足立東和道院拳友会) 居作和英・綿貫壮平 (東京・早稲田実業) 小林和真・平松佳祐 (東京・早稲田実業) 亀谷あゆみ・宮崎柊花 (東京・早稲田実業) 水谷優作・西東渚 (愛知今伊勢道院拳友会) 寺井理耶子・天幸奈穂 (東京・富士見丘学園) 康井昭吾・堰代雄太 (東京・立川第七中学校) 石橋花恋・山口裕璃 (東京・早稲田実業) 福田実咲・久保樹梨亜 (東京・富士見丘学園) 田代唯人・圓堂聖史 (埼玉・草加道院拳友会) 城山春菜・孫丹青 (東京・富士見丘学園) 福川大地・橋本優 (神奈川・横浜緑園道院拳友会) 小川天真・加藤大和 (愛知・日進南道院拳友会) 山下虎太郎・梶山竜之介 (愛知・名古屋前之輪道院拳友会)

◇小学生有段の部 = 堀見一生・山岸大暉 (大阪・富田林北道院拳友会) 小西翔太・杉本侑亮 (和歌山・南部スポーツ少年団) 平田蓮仁・福田彩加 (広島・福山南道院拳友会) 福地将平・金子佑哉 (神奈川・川崎柿生道院拳友会)

《単独基本演武》

赤間福太郎 (奈良郡山道院拳友会) 中川翔友 (和歌山・南部スポーツ少年団) 小島優斗 (群馬蕨塚道院拳友会) 植田陽翔 (東京・南中野道院拳友会) 根本桜 (神奈川・西湘山北道院拳友会) 亀井陽向 (群馬多々良道院拳友会) 小林太陽 (神奈川・小田原道院拳友会) 小川紗弥 (千葉・船橋菜園台道院拳友会) 須藤新史 (群馬・上州白根道院拳友会) 山口創司 (愛知・名古屋太子道院拳友会) 大森未結 (神奈川・湘南二宮道院拳友会) 辻村太一 (奈良中央道院拳友会) 増田紘也 (静岡・富士西道院拳友会) 村上薫 (大阪・泉南西信達道院拳友会) 荒井天斗 (千葉・木更津岩根道院拳友会) 圓堂紗希 (埼玉・草加道院拳友会) 沼倉未磨 (秋田湯沢スポーツ少年団) 宮本秀真 (大阪・高石スポーツ少年団) 初芝光貴 (千葉・大日道院拳友会) 新井一矢 (埼玉・埼玉三ヶ島道院拳友会) 鈴木木生 (東京・町田南成瀬支部) 田中葉菜 (茨城・水戸スポーツ少年団) 古村瑠菜 (愛知・日進南道院拳友会) 天野景太 (兵庫・つかしんカルチャーセンター) 丸井竜二 (愛知・岡崎こだるま道院拳友会) 関野竜希 (神奈川・足柄中井道院拳友会) 申晶環 (東京・多摩桜ヶ丘道院拳友会) 大木風貴 (東京東陽町道院拳友会) 福島博人 (佐賀小城スポーツ少年団) 戸田和希 (奈良中央道院拳友会) 赤間のか (宮城・多賀城城南道院拳友会) 森下桃帆 (愛知東浦道院拳友会) 藤井葉衣樹 (群馬北毛道院拳友会)

《団体演武》

◇中学生の部 = 川崎由稀・林昇吾・高島昇吾・上條龍之介・中村光一・難波大輔 (神奈川・綾瀬深谷道院拳友会) 蒲原まゆみ・湯野川駿介・江草俊作・井坂穂・安藤千華・市川祐太 (山梨・甲州大月道院拳友会) 内田杏香・福村玲奈・野崎智花・二森美菜子・亀石恵未・八木杏那 (東京・富士見丘学園)

◇小学生有段の部 = 浦田智騎・松本龍樹・井上空・東海林智貴・林夏子・三原藍里 (愛知・豊明東道院拳友会) 藤田涼我・正木怜・上野輝輝・松尾明英・松永夏鈴・逢坂一斗 (徳島・脇町東道院拳友会)

◇小学生3級～1級の部 = 伊藤大寛・宮本隆・奥田宏人・増井晃弥・谷龍輔・柏原正宗 (奈良中央道院拳友会) 田中聖馬・館山泰知・市川功輔・市川大輔・館山千晶・馬場久遠 (東京・八王子富士森道院拳友会) 佐野太星・大石未来弥・八木聡眞・源平唯加・中川颯人・加藤優奈 (静岡・富士北道院拳友会) 永戸秀・神谷拓空・猪飼真史・筒井鯛喜・市古空・金森壘 (愛知・豊明東道院拳友会) 早坂礼乃・小柴海亜・宇野萌花・増田晴奈・川辺菜月・馬場康平 (千葉南道院拳友会)

◇小学生見習い～4級の部 = 宮崎天良・宮崎愛実・井上匠・比留間瞳斗・植村朱葉・白井颯馬 (神奈川・相模原道院拳友会) 平野楓夏・國井玲奈・深谷真太郎・川口碧海・森翔多朗・渡邊和瑞 (福島・白河東道院拳友会) 松本梨沙・市古光音・三原碧音・近藤憲吾・林和花・加藤奏風・清水陽介・田澤楓 (愛知・豊明東道院拳友会)

少林寺拳法 — <優秀賞>

《規定組演武》

- ◇小学生1級 = 石井もも・後藤ヒカリ (千葉・市原姉崎道院拳友会) 金子俊太・宮本光希 (千葉・大日道院拳友会) 山中広翔・新道敬重 (奈良・大和桜井道院拳友会) 中込昂志・中込かれん (広島・福山南道院拳友会) 塚本啓己・酒井聖也 (神奈川・小田原道院拳友会) 石井志龍・瀬能桃叶 (千葉・大日道院拳友会) 渡邊峻平・高木風薫 (千葉野田道院拳友会) 木村健志・諸岡志郎 (愛知・春日井北道院拳友会) 神寄真季・萩原佳里南 (埼玉鶴瀬道院拳友会) 森下洋介・野田洗人 (千葉・船橋菜園台道院拳友会) 大木美穂・大坪士晏 (神奈川・小田原道院拳友会) 樋口優・浅田果甫 (愛知・石ヶ瀬道院拳友会) 田中淳也・鈴木直希 (宮城・青葉道院拳友会) 秋葉美玖・鳥飼智美 (千葉海匝道院拳友会) 鈴木日菜・坂間陸 (東京試衛館道院拳友会)
- ◇小学生2級 = 宮崎篤利・崎田匡人 (神奈川・川崎東道院拳友会) 吉澤比椋・生井優聖 (茨城・守谷市スポーツ少年団) 鮎貝海空・河村優作 (埼玉・朝霞道院拳友会) 畑垣聖・南部慶道 (和歌山・南部スポーツ少年団) 渡邊晃・古賀優希 (神奈川・小田原道院拳友会) 秋葉ユリヤ・島倉沙季 (千葉茂原道院拳友会) 石川杏亮・山地広大 (香川・タドツスポーツ少年団) 長島颯汰・秋谷竜舞 (埼玉川島道院拳友会) 斯波岳士・守屋彰二 (宮城・青葉道院拳友会) 高本悠斗・今西敦志 (大阪・泉南西信達道院拳友会) 児玉葉・大庭夏音 (愛知・デンソー) 粗山大雅・佐藤光駿 (千葉・市原姉崎道院拳友会) 山本雅貴・名嘉海斗 (京都・伏見丹波橋スポーツ少年団) 荒井敬太・武山美紗子 (神奈川・川崎東道院拳友会) 伊藤竜栄・佐々木快盛 (秋田横手スポーツ少年団) 中村大河・前田大豪 (福井新田塚道院拳友会) 根岸樹生・秋谷蓮 (埼玉川島道院拳友会) 中川弘陸・花光大生 (和歌山・南部スポーツ少年団)
- ◇小学生3級 = 宮本幸典・東時生朗 (大阪長野道院拳友会) 片田美琴・宮里亮 (埼玉・朝霞道院拳友会) 中野龍誠・鱈将太 (徳島・大麻スポーツ少年団) 櫻井さくら・櫻井かえで (栃木瑞穂道院拳友会) 山本桃子・吉村紀人 (奈良郡山城道院拳友会) 佐藤太・西村朝日 (秋田泉スポーツ少年団) 福島隆太・福島宏輝 (佐賀小城スポーツ少年団) 松永海史・沢良木利奈 (大阪摂津和道院拳友会) 志賀美咲香・後藤拓 (宮城・多賀城城南道院拳友会) 染谷美月・深澤優花 (茨城・守谷市スポーツ少年団) 阪口稜真・山ノ内大雅 (和歌山・南部スポーツ少年団) 野辺佳太・中嶋彩瑛 (兵庫・つかしんカルチャーセンター) 大森朗生・宮川竜之介 (神奈川・足柄中井道院拳友会) 森俊博・荒井白雲香 (東京試衛館道院拳友会) 岡田万里奈・影山紗弥香 (岐阜高富道院拳友会) 今野夢生・小瀬村一希 (神奈川大和道院拳友会) 福田拓海・三島美咲 (広島・福山南道院拳友会) 古藤田未来・梅田和花 (愛知東浦道院拳友会) 高橋右京・小林歩夢 (千葉・大日道院拳友会) 平田梨乃・平田詩歩 (埼玉・東松山スポーツ少年団) 六川葉月・久保田有海 (群馬敷塚道院拳友会) 佐藤颯人・佐々木稜太 (秋田泉スポーツ少年団)
- ◇小学生4級 = 山田颯・永尾光人 (愛知・一宮中部道院拳友会) 村岡龍斗・牛島健太 (愛知・東海なわ道院拳友会) 佐藤郁・橋本和希 (奈良・大和桜井道院拳友会) 松本大智・根岸圭吾 (埼玉・熊谷道院拳友会) 森川秀斗・森川天斗 (奈良・大和桜井道院拳友会) 北川優登・永尾初姫 (愛知・一宮中部道院拳友会) 荊原逸斗・井上竣介 (東京東陽町道院拳友会) 吉開瑛巴・井達優佑 (千葉・流山北道院拳友会) 井上拓人・寺澤慶 (東京足立東和道院拳友会) 丸山沙耶香・坪井あみ (神奈川・下溝スポーツ少年団) 武藤寛尚・江藤心美 (愛知今伊勢道院拳友会) 六川尊斗・本多麗央 (群馬敷塚道院拳友会) 鶴澤央央・佐野心優奈 (千葉茂原道院拳友会) 増田健・寺岡義瑛 (千葉・大日道院拳友会)
- ◇小学生5級 = 今西陽樹・村上新 (大阪・泉南西信達道院拳友会) 古村勇樹・古村光輝 (愛知・日進南道院拳友会) 斎藤千優・嶋村仁 (埼玉・草加道院拳友会) 渡辺風雅・栗田拓実 (千葉・大日道院拳友会) 竹久保敦也・幾田雄也 (神奈川・足柄中井道院拳友会) 柳金香・石塚翔 (千葉野田道院拳友会) 城山慧・守屋隼輔 (東京・青梅永山道院拳友会) 酒井規夫・山本陽輝 (神奈川・足柄中井道院拳友会) 池田夏葉・芦田海遥 (千葉・船橋東道院拳友会) 吉田龍生・吉田祈代 (岐阜・多治見青龍道院拳友会) 小田切紗羅・天空陸 (群馬北毛道院拳友会) 加藤周生・稲葉龍一 (愛知・名古屋前之輪道院拳友会) 高橋哲哉・船山友菜 (秋田湯沢スポーツ少年団) 坂本夏美・前田明日香 (和歌山・南部スポーツ少年団) 大元舞咲・高橋史弥 (愛知・名古屋太子道院拳友会) 高橋京汰・鈴木暁斗 (千葉・大日道院拳友会) 悠野愛子・佐々木瀬風 (神奈川大和道院拳友会) 細谷つかさ・須永カオル (埼玉藤久保道院拳友会) 新倉颯・村山悠樹 (東京・多摩桜ヶ丘道院拳友会) 時田健・石田達朗 (宮城・青葉道院拳友会) 杉本怜平・前田知範 (和歌山・南部スポーツ少年団) 工藤優月・石井彩名 (群馬富岡道院拳友会)
- ◇小学生6級 = 山岡天道・富永真杜 (東京田無道院拳友会) 圓井経佑・藤田大成 (福島鮫川道院拳友会) ハンマーカス聡・須藤祐生 (東京石神井道院拳友会) 嶋田颯麻・井村亮太 (東京・青梅永山道院拳友会) 石田俊裕・柴田遥人 (愛知・名古屋植田道院拳友会) 松村裕紀・圓堂皓史 (埼玉・草加道院拳友会) 中田暮翼・吉水友佑 (愛知・名古屋太子道院拳友会) 圓井空志・塩田和也 (福島鮫川道院拳友会) 高橋千聖・西ノ村孔南 (東京試衛館道院拳友会) 浅田永遠・森下颯也 (愛知東浦道院拳友会) 佐藤賢斗・瀧澤朋哉 (秋田湯沢スポーツ少年団) 天野正輝・黒田侑 (千葉・大日道院拳友会) 千々和舞・岡田朱璃 (東京試衛館道院拳友会) 日光駿太・錦織輝 (石川・加賀梯道院拳友会)
- ◇小学生見習い～7級 = 高木麗那・石川優真 (埼玉鶴瀬道院拳友会) 川辺さくら・成瀬もも (千葉南道院拳友会) 青野日和・斉藤海里 (群馬多々良道院拳友会) 浅田麗央・山内涼生 (愛知東浦道院拳友会) 清水瑠偉・竹内百笑 (神奈川・伊勢原道院拳友会) 沢良木駿介・沢良木優介 (大阪摂津和道院拳友会) 井達優惺・小菅陽太 (千葉・流山北道院拳友会) 立岡愛喜・磯部竜希 (愛知・東海なわ道院拳友会) 津山朗慶・田中真琴 (奈良郡山城道院拳友会) 那須彩乃・那須希美 (埼玉・東松山スポーツ少年団) 小西杏奈・畑野結月 (和歌山・南部スポーツ少年団) 金子祐真・金子あゆみ (東京試衛館道院拳友会) 中澤遥希・佐藤綾起 (徳島・大麻スポーツ少年団) 小見一真・富澤拓夢 (群馬北毛道院拳友会) 千々和駿・岡田琉鳳 (東京試衛館道院拳友会) 新谷竜司・新谷鳳司 (茨城つくば道院拳友会) 柳澤憲吾・梅田陸斗 (愛知東浦道院拳友会) 上野拓海・山下大和 (和歌山・南部スポーツ少年団) 古田孔明・鈴木匠 (千葉・大日道院拳友会) 長谷川大慧・城所迅 (神奈川・伊勢原道院拳友会)

《自由組演武》

- ◇中学生有段の部 = 杉浦悠・杉浦壮思 (兵庫・昆陽道院拳友会) 小木曾香純・川畑依子 (愛知・名古屋太子道院拳友会) 小川真季・渡辺彩夏 (東京・日本武道館武道学園) 三鬼龍馬・島袋友樹 (愛知・名古屋太子道院拳友会) 田中万琴・荒井流風香 (東京試衛館道院拳友会) 田中優香・田中夢穂 (福岡北道院拳友会) 村田みお・村田もえ (神奈川大和道院拳友会) 古川明花・植村亮 (大阪・富田林北道院拳友会) 中田駿輔・森永雅輝 (東京・多摩桜ヶ丘道院拳友会) 鈴木翔也・佐々木想人 (東京試衛館道院拳友会) 飯島海渡・松本寛児 (愛知・名古屋植田道院拳友会) 今野真・伊藤佑馬 (愛知・東海なわ道院拳友会) 竹内圭太・小林明史 (京都・伏見丹波橋スポーツ少年団) 有本健人・長谷川航 (大阪・富田林北道院拳友会) 高橋涼・羽賀ゆかり (東京試衛館道院拳友会) 高橋祐希・矢野智大 (愛知・一宮中部道院拳友会) 山本瀬菜・笹川理菜 (大阪摂津和道院拳友会) 古川瑛大・滝川利 (大阪・富田林北道院拳友会) 中山裕斗・山下哲太郎 (愛知・名古屋前之輪道院拳友会)

好評発売中



スポーツドクター **辻 秀一** 著
 四六判・上製・248 ページ

武道やスポーツは「医療である、芸術である、コミュニケーションである、教育である」とする筆者が、指導者のために書いた良きハンドブック。ぜひ、ご一読を。



ほんとうの価値の伝え方

武道スポーツの真髄

主な目次

- 第1章 「文武両道」の人間教育
- 第2章 真剣勝負を楽しみ、人間的成長を図る
- 第3章 「セルフイメージ」という心のエネルギー
- 第4章 トップアスリートに学ぶ「社会力」
- 第5章 たかが目標、されど目標
- 第6章 「武士道書」に学ぶ
- 第7章 子どもたちの「社会力」を育てる
- 第8章 「オンリーワン」の子どもを育てる

編集・発行 日本武道館
 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
 日本武道館出版広報課
 までどうぞ！

TEL03(3216)5147
 FAX03(3216)5158

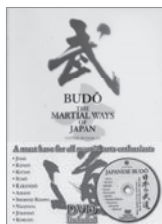
日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)



武士道に学ぶ

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



< 増補版 >

私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)

全日本銃剣道選手権大会

坂元誠（静岡）が悲願の初優勝



決勝、坂元対根本
=坂元（左）の上胴が決まる

銃剣道日本一を決める高松宮記念杯争奪第20回全日本銃剣道選手権大会は、8月10日、日本武道館で開かれた。大会には各都道府県代表と前回3位までの入賞者、計64名が出場し、トーナメント戦によって覇が争われた。

決勝は、坂元誠教士七段（静岡）が延長の末、根本努教士七段（東京）から上胴を奪って勝利し、初の栄冠を手にした。3位には市原茂錬士六段（高知）、六鎗俊昭錬士六段（北海道）がそれぞれ入賞した。

開会式では、鈴木健大会委員長による開会宣言の後、今年5月に就任の酒井健全日本銃剣道連盟会長が「最高の品格と技備が備わった、日本一を決めるにふさわしい試合を展開して、『正しいものは美しい、美しいものは強い』ことを示し、感動を与えていただきたい」と挨拶を述べた。続いて、三藤芳生日本武道館理事・事務局長の祝辞、大丸知之おおまる審判長による審判長注意があった。その後、竹下雄二教士七段が力強く選



手宣誓を行い、大会の幕が開いた。本大会の出場資格は錬士六段以上。前回までの30歳以上という年齢制限はなくなった。試合はトーナメント方式、5分間三本勝負で争われた。また、時間内に決しない場合は、時間無制限の延長戦により、先取りで勝負を決定した。

◇ 序盤戦、第一ブロックでは齋藤正頼（静岡）が、前回3位で二年前にこの大会を制している山田壮一（宮城）からノドで一本勝ちした。初出場の六鎗俊昭（北海道）は、その齋藤と3回戦で対戦し、延長でノドを決めて準々決勝へと進んだ。

第二ブロックは、実力者が多く並んだ。3位の経験のある根本努（東京）は、元選手権者で前回準優勝の竹下雄二（愛媛）と2回戦で対戦。根本は竹下から上脛を二本決めて勝利した。根本の3回戦の相手は田尻竜三（熊本）。田尻は昨年の山口国体優勝メンバーの一人。互いに見合う展開が続いたが、根本が上脛で一本勝ちした。

第三ブロック。坂元誠（静岡）は、初戦で中山厚史（大阪）と対戦。坂

元が下胴で先制するも、中山が上胴で追いつく。これまで二大会連続1回戦負けで「選手権は怖い」と語る坂元だったが、延長で上胴を奪い勝利した。坂元は2回戦も栗原慶祐(北海道)から開始早々に下胴を決めて一本勝ち。3回戦では前回3位の松野和樹(東京)と対戦し、長時間の延長の末、上胴で勝利した。

第四ブロック。前回優勝の飛永正純(静岡)は、2回戦で今村裕広(宮城)に上胴で先制されるも、時間ぎりぎりまで下胴を返して並ぶ。延長になり、飛永はなんとか下胴を決めて辛くも勝ち進んだ。3回戦は角康大(熊本)と顔をあわせた。角は田尻と同じく国体優勝チームの一員。連続優勝の期待のかかる飛永だったが、延長開始直後に角が上胴を決めて勝利した。

▽準々決勝敗退II飛永正純選手(静岡)
「出てくるところを狙いましたが、予想以上に角選手の剣がのびてきました。選手権者として精神的にもぎつかったです。これからは指導の面で貢献したいと思います。弱かった自分をここまで育ててくれた先輩方のような指導者になりたいです」

序盤戦ハイライト



3回戦、坂元対松野=坂元(右)の上胴



2回戦、齋藤対山田=齋藤(左)のノド



3回戦、根本対田尻=根本(右)の上胴



2回戦、根本対竹下=根本(左)の上胴



3回戦、角対飛永=角(右)の上胴



2回戦、飛永対今村=飛永(左)の下胴



根本（右）の下胴が決まる

◆根本 努 下一 上井周平

根本は、返し技や上胴の連続技で先手を打とうとする上井周平（鳥取）の攻撃を捌き、中盤で下胴を奪う。根本はそのリードを守り切り、準決勝へと進んだ。



六鎧（手前）の下胴が決まる

◆六鎧俊昭 下下一 初村丈也

これまで一本勝ちで僅差をものにしてきた六鎧。初村丈也（長崎）からは、近間での攻防から調子よく下胴を重ねて二本勝ちした。

準々決勝



市原（左）の上胴が決まる

◆市原 茂 上一 角康大

延長に入り、市原茂（高知）は、終始上胴で攻める角に苦戦するが、近間からの上胴を続けて放つと、これが決まって勝利した。



坂元（左）が上胴で攻める

◆坂元 誠 上一 竹村和城

坂元が下胴、竹村和城（愛媛）が上胴の相突きから始まる。序盤から積極的に技を出す竹村。しかし、坂元はこれを見切り、竹村が下胴で攻めたところを上胴に返し、一本勝ちした。

●ベスト8入賞者コメント

▽初村丈也選手（長崎）

「初出場でした。初戦は落ち着いた試合運びが出来ました。六鎧選手には、うまく下胴を突かれてしまいました」

▽上井周平選手（鳥取）

「これまで4年連続で1回戦敗退でした。今回も、初戦は動きが固かったのですが、2回戦以降は、肩の力が抜けて出来ました。延長は疲れませんが、みんな我慢比べですね」

▽竹村和城選手（愛媛）

4年前に優勝の竹下選手が、昨年愛媛に転属。これを機に、マンツーマンの指導を受けることになった。

「おかげで今回の結果に繋がったのだと思います。初出場だったので、邪念がなく試合が出来ると思ったのですが、勝ち上がるにつれて緊張して、有効な技が出なくなりました」

▽角康大選手（熊本）

「優勝を狙っていました。4月の優勝大会が準優勝だったので手応えを感じていましたが、運がなかったです。次こそはやってやろうかなと思います。せめて入賞して、来年はシールドで臨みたかったですけどね」

準決勝
(坂元 × 市原)



坂元（左）の上胴が決まる

◆坂元 誠 下上一上 市原 茂

先制したのは市原。間合いが詰まったところから上胴を決める。後がなくなった坂元は、すぐさま下胴で取り返して並ぶ。延長1分、接近した状態から坂元が上胴で逆転勝ちした。

準決勝
(根本 × 六鎗)



根本（右）の上胴が決まる

◆根本 努 上上一 六鎗俊昭

積極的に前に出る六鎗は連続技で根本を攻める。しかし、根本は六鎗の攻撃を払って上胴を決める。その後も根本は返し技で六鎗から上胴を奪って、二本勝ち。試合時間わずか1分36秒で六鎗を沈めた。

決勝
(坂元 × 根本)

◆坂元 誠 上一 根本 努

相手の出方をみているのか、序盤から膠着した展開が続く。有効な技が出ないまま、延長に突入。間合の駆け引きに緊張感が増す。場内には気合と木銃の合わさる音だけが響きわたる。延長時間が20分を超えても一進一退の攻防が続く。すると、両者の気迫ある技が出るたびに観客から拍手が起こった。

近間での攻防の中、互いが一瞬さがった場面、坂元はここぞとばかりに上脰を放つも、根本が足捌きできわどくかわす。

根本も負けじと反撃に出る。間合いを詰めながら上脰を狙うと、坂元はその攻撃を木銃で抑えながら外側に払う。たまたず体勢を崩した根本に対し、坂元が上脰を突くと、これが見事に決まって一本となった。坂元が悲願の初優勝を遂げた。



技が決まるまでの連続写真
坂元(右)が木銃を巧みに操り、見事に上脰を決めた

入賞者
前列右から3位・六鎧、
準優勝・根本、優勝・坂元、3位・市原



勝負師坂元、長年の期待に応える

優勝Ⅱ坂元誠選手（静岡）

正座をして面を脱ぐ。フーッと長い息を吐き、日本武道館の天井を見あげた。

精根尽きたのだろう。3回戦では26分、決勝戦は過去最長となる32分41秒の死闘だった。

ゆっくり立ち上がると、仲間たちからの祝福を受けた。握手をするたび、目から大粒の涙が落ちる。

もともと勝負事が好きで、20歳ごろ初めて木銃に触れた。チーム（普通科教導連隊）では大将を任せられ、平成18年から優勝大会3連覇の立役者となった。個人戦でも、本大会に

初出場の18年から2年連続3位と活躍。しかし、次の年から2大会続けてベスト8止まり。ここ2年間は初

戦負けと、成績は右肩下がりがだった。その一方で、同じ年齢の選手たちが名を馳せていく。飛永、山田、竹下といった、この大会の優勝者をはじめ、決勝で対戦した根本、過去に

準優勝の吉牟田学などである。こうした中、どのような気持ちで臨み、

念願の優勝を果たしたのだろうか。

「もう、優勝できないと思いました。選手を辞めようかと悩みました。でも、1回戦で負けた自分あまりにも悔しくて、もう少し何か出来るんじゃないかと考えました」

前回、チームメイトである飛永が優勝。チームでは、自分がずつと大将の座に着いていただけに、同僚の飛躍ぶりは、大きな刺激になった。

飛永についてはこう語った。「自分は彼（飛永選手）がいなかったら、もう辞めていたと思います」

一方の飛永は「自分は彼（坂元選手）に強くしてもらいました。今日の優勝は自分のことのように嬉しいです」

互いに切磋琢磨してきたのだろう。その甲斐があって、チームをはじめ、関係者や親戚の期待にもようやく応えられた。

大会には家族がいつも応援に来てくれるという。

「妻が勝てない自分に気を使っているのがよく分かっていました。そんな自分が歯がゆくて仕方がなく、な

んとか家族が喜ぶ顔をみたいと思っていました」

かけつけたご家族の笑顔が印象に残る。

今後は、指導者として活躍の場を移したいと語る。しかし、10月には岐阜国体を控え、来年は前回優勝者としての出場枠が用意されている。

「やるからには狙います」

最後は勝負師としての力強い一言で締めくくった。



ご家族と記念の一枚
疲労困憊の坂元選手、この撮影後、「立てない……」とつぶやいた

▽3位Ⅱ六鎗俊昭選手（北海道）

「初めての出場で緊張しました。悪い所を出さないように楽しもうと思いを大事にしています。来年も入賞を目指します」

▽3位Ⅱ市原茂選手（高知）

「自分は、他の選手より腕力がなく、やせ細っていますが、試合は力だけではないところをみせたかったです。準々決勝で、元同僚の角選手と対戦したときは大変でした。見ている人は退屈だったかもしれませんが、探り合いに必死でした」

▽準優勝Ⅱ根本努選手（東京）

「前は、予選で後輩の松野選手に敗れて出場できませんでした。これが最後のチャンスだと思ってやりました。坂元選手とは青年大会に出場していたころからのライバルです。今日こそ決着のときでした。」

2回戦の竹下選手との試合が大きな山でした。5年くらい前に二本勝ちされているので、ようやくお返しをすることが出来ました。国体と優勝大会は制しているのに、この大会だけ取れていません。来年はもっと腕を磨いて挑戦します」

第20回 全日本銃剣道選手権大会

| 称号 | 出場回数 | 氏名 | 県連盟 | | | | 称号 | 出場回数 | 氏名 | 県連盟 |
|-----|------|-------|-------|------------|-------------|-------------|-------|------|-------|-------|
| 錬六初 | | 長谷川博昭 | (石川) | 優勝 坂元 誠 | 準優勝 根本 努 | 第三位 市原 茂 | 錬六初 | | 黒澤 俊弘 | (山梨) |
| 錬六初 | | 初村 丈也 | (長崎) | | | | 錬六初 | | 清水 大介 | (青森) |
| 錬六初 | | 富樫 貴臣 | (山形) | | | | 錬六初 | | 竹村 和城 | (愛媛) |
| 錬六3 | | 井上 剛宜 | (京都) | | | | 錬六初 | | 東川 智彦 | (福井) |
| 錬六初 | | 荒川 卓也 | (北海道) | | | | 錬六初 | | 藤村 太郎 | (山口) |
| 錬六初 | | 松本 秀雄 | (山口) | | | | 錬六初 | | 吉國 直樹 | (宮崎) |
| 錬七6 | | 滝沢 賢 | (群馬) | | | | 錬六初 | | 中藪 祥行 | (滋賀) |
| 教七初 | | 津川 貢一 | (三重) | | | | 錬六初 | | 田守 昭夫 | (三重) |
| 錬六初 | | 高橋 克徳 | (茨城) | | | | 錬六初 | | 栗原 慶祐 | (北海道) |
| 錬六2 | | 矢上 智之 | (広島) | | | | 錬六2 | | 田上 雅大 | (埼玉) |
| 錬六初 | | 久原 達也 | (大分) | | | | 錬六4 | | 中山 厚史 | (大阪) |
| 錬六初 | | 六鎗 俊昭 | (北海道) | | | | 教七7 | | 坂元 誠 | (静岡) |
| 教七7 | | 山本 幸一 | (香川) | | | | 錬六初 | | 好中 大哲 | (香川) |
| 錬六初 | | 齋藤 正頼 | (静岡) | | | | 錬六2 | | 齋藤 慎一 | (福島) |
| 錬六初 | | 中村 智貴 | (沖縄) | | | | 錬六初 | | 中重 勇輝 | (鹿児島) |
| 錬六4 | | 山田 壮一 | (宮城) | | | | 錬六2 | | 松野 和樹 | (東京) |
| 錬六4 | | 中村 聡 | (福岡) | | | | 錬六5 | | 今津 康弘 | (広島) |
| 錬六2 | | 秋元 伸幸 | (北海道) | | | | 錬六5 | | 廣瀬 敬久 | (富山) |
| 錬六5 | | 上井 周平 | (鳥取) | | | | 教七3 | | 下山 信秀 | (大分) |
| 錬六初 | | 菅野 達也 | (岩手) | | | | 錬六初 | | 遠嵜 勇樹 | (愛知) |
| 錬六2 | | 安藤 勝 | (福島) | 錬六2 | | 佐藤 智 | (秋田) | | | |
| 錬六2 | | 俵山 崇 | (埼玉) | 錬六3 | | 市原 茂 | (高知) | | | |
| 錬六初 | | 東 昭伸 | (兵庫) | 錬六初 | | 木村 壮吾 | (神奈川) | | | |
| 錬六初 | | 南脇 章吾 | (宮崎) | 錬六初 | | 梅木 昭浩 | (北海道) | | | |
| 錬六5 | | 田尻 竜三 | (熊本) | 錬六4 | | 高橋 伸嘉 | (栃木) | | | |
| 錬六初 | | 森 拓也 | (愛知) | 教七4 | | 幸野 哲宏 | (京都) | | | |
| 錬六3 | | 桑原 健裕 | (新潟) | 錬六初 | | 高島 武志 | (岡山) | | | |
| 錬六3 | | 加藤 公久 | (千葉) | 錬六3 | | 角 康大 | (熊本) | | | |
| 錬六初 | | 森 純一 | (宮城) | 錬六初 | | 佐藤 弘一 | (宮城) | | | |
| 教七6 | | 根本 努 | (東京) | 錬六2 | | 今村 裕広 | (福岡) | | | |
| 錬六3 | | 金友 竜也 | (大阪) | 錬六3 | | 北原 茂 | (長野) | | | |
| 教七8 | | 竹下 雄二 | (愛媛) | 教七4 | | 飛永 正純 | (静岡) | | | |

○大会審判長 大丸知之 範士九段
 「中身の濃い試合が多くありました。選手たちの実力は伯仲し、本当に紙一重の差であったと思います。特に印象に残った試合は、角選手と飛永選手の試合です。延長開始直後に角選手が剣を出したタイミングが、すごく良かったです。改善点もあります。試合が非常に単純で連続技がないといいますが、技が単発で終わっていました。その辺がまだまだと感じました。決勝は、互いの得意技がぶつかりあう試合でした。二人とも辛抱強くやっていたので、長時間の延長戦は当たり前前だと思えます」



特別演武 銃剣道の形
 打方 小川功教士八段(千葉)
 仕方 相野照昭教士八段(青森)

第16普通科連隊A(長崎)が 16年ぶりの優勝



団体戦青年第1部決勝・大将戦、16普通Aの永富(右)が40普通Bの板倉に上胴を決める

第43回全日本青年銃剣道大会

第2部は対馬警備隊(長崎)が初優勝 女子個人戦は酒井美香(神奈川・通信教導隊)が優勝

第43回全日本青年銃剣道大会は8月9日、日本武道館で開催された。全国各地の予選を勝ち抜いた1100余名が集い、団体戦青年第1部・第2部及び女子個人戦の3部門で、それぞれトーナメント方式によって競われた。

団体戦青年第1部は、16普通A

(長崎)が16年ぶり2回目の優勝を遂げ、第2部は対馬警備隊(長崎)が初優勝を果たした。女子個人戦は、酒井美香(通信教導隊)が4年ぶり2回目の優勝に輝いた。

◆団体戦(3人制)

各試合は3分3本勝負で行われ、時間内に勝負が決しない場合は判定



来賓祝辞 = 小池百合子
元防衛大臣・衆議院議員

により勝敗を決した。

▽第1部(高校生を除く16〜30歳)

ただし、自衛官は21〜24歳

231チームが出場。準決勝では、40普通B(福岡)が44普通A(福島)を3-0、16普通A(長崎)が37普通A(大阪)を2-1でそれぞれ降し、決勝に駒を進めた。

決勝戦、16普通Aと40普通Bの試合は、まず16普通Aの先鋒・尾形が上胴を決めて勝利したが、中堅戦では40普通Bの山内が判定で勝ち、五分とした。しかし、16普通Aの大将・永富は、下胴と上胴を奪って勝利し、2-1で16普通Aが16年ぶり2回目の優勝を果たした。

◎優勝16普通A・里智行監督

「皆、一致団結していました。体調も、メンタル面もうまく調整出来、自分の持つ力、自分の剣、仲間を信じて思い切って攻めました。今後も驕らず、チャレンジ精神で新たにスタートしたいと思います」



団体戦青年第2部決勝・中堅戦＝対馬・坂元(左)対40普連・蛭原



女子個人戦決勝＝酒井(右)の下胴が決まる

◎優勝Ⅱ16普連A大将・永富滋選手「すごく嬉しいです。1年間練習してきた成果を最後に出せて、本当に良かったと思います」

▽第2部(高校生を除く16〜20歳)

115チームが出場。決勝は、対馬警備隊(長崎)対昨年優勝の40普連(福岡)。先鋒戦は、40普連の西田が上胴と小手を決めて勝利。中堅戦は、先に40普連の蛭原が下胴を奪ったが、対馬の坂元がその後、下胴と上胴を決めて逆転。大将戦は、対馬の岩橋が下胴で一本勝ちし、2―1で対馬警備隊が初優勝を飾った。

◎優勝Ⅱ対馬警備隊・成重富広監督

「感動しました。選手たちが緊張を乗り越えてやってくれました。これからも日々の努力を怠らせずに大きな大会での上位入賞を目指します」

◆女子個人戦(16歳以上)

78名が出場。2連覇中の大石ひとみ(16普連)は公務が重なり欠場。準決勝には、昨年準優勝の渡井カオリ(普教連)のほか、江川聖美(千歳)、酒井美香(通教隊)、濱田玲子(防衛大)が勝ち残った。渡井対江川は、判定で江川の勝利。酒井対濱田は、酒井が上胴2本で決

勝進出を決めた。

決勝戦、酒井と江川の対戦は、序盤、酒井の下胴が決まる。その後一進一退の攻防が展開し、江川の攻めを酒井は冷静に捌いて反撃する。江川の惜しい突きもあつたが試合終了



団体戦青年第2部優勝＝対馬警備隊(長崎)



団体戦青年第1部優勝＝第16普連A(長崎)

となり、酒井が4年ぶり2回目の優勝に輝いた。

◎優勝Ⅱ酒井美香選手(通信教導隊)「嬉しいですよ。調子が良くて思い切って挑みました。強い人たちとの対戦で勢いに乗り、優勝出来ました」



女子個人戦優勝＝酒井美香(神奈川・通教隊)

【大会結果】

◆団体戦

▽青年第1部Ⅱ①16普連A(長崎)②40普連B(福岡)③44普連A(福島)、37普連A(大阪)

▽青年第2部Ⅱ①対馬警備隊(長崎)②40普連(福岡)③1普連(東京)、4特連(福岡)

◆女子個人戦

優勝Ⅱ酒井美香(神奈川・通教隊)
2位Ⅱ江川聖美(北海道・千歳)
3位Ⅱ渡井カオリ(静岡・普教連)
濱田玲子(神奈川・防衛大)

日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

マンガ・武道のすすめ

マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ! 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ

大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ

森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ

森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ

塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ

金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ

多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ

合田清一／阿達美恵子／山巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ

澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ

桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ

竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(馬術)

日本武道館の歴史

(B5判・236頁)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



今、なぜ武道か
 一文化と伝統を問う一
 福島大学教授
中村 民雄 著
 (四六判・上製・370頁)



BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN
 日本武道館 編
 翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
 (B5判・上製・DVD付・336頁)



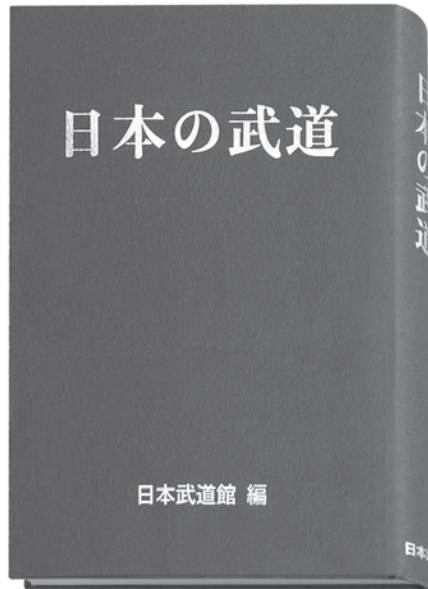
武道
子どもの心をはぐくむ
 早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
 (四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く
 月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
 (四六判・上製・376頁)

一千数百年の歴史を有する
 武道の全容をこの一冊に集大成!!
 武道小百科事典としても役立つ
 充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
 少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、
 各武道統括団体の全面協力によって完成!!



(B5判・上製・箱入・526頁)



日本武道館 編

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

第47回全日本少年剣道錬成大会
第37回全日本選抜少年剣道個人錬成大会



小学生団体決勝次鋒戦＝光龍館・田村(右) 対京都太秦少年剣道部・片山

小学 団体
光龍館(香川)が8年ぶり優勝
中学 団体
東松館道場(東京)が2連覇

第47回全日本少年剣道錬成大会・第37回全日本選抜少年剣道個人錬成大会(主催)全日本剣道道場連盟は7月31日・8月1日の2日間にわたり、日本武道館で開催され、全国各地の予選を勝ち抜いた小・中学生約5100名が出場して、それぞれ団体戦と個人戦で熱戦が展開された。小学生団体は、決勝で昨年優勝の京都太秦少年剣道部(京都)を降した昨年3位の光龍館(香川)が8年ぶりに優勝を遂げた。中学生団体の決勝は昨年と同じ対戦となり、東松館道場(東京)が昭島中央剣友会(東京)との接戦を制して連覇を果たした。

個人戦の小学生は山下侑輝選手(熊本・相良少年剣友会)、中学生は内橋響希選手(大阪・東陶器春風館)が共に初優勝し、日本一に輝いた。

●団体戦(5人制)

小・中学生ともに16コートに分かれて、トーナメント方式でコート代表を決定し、16チームによる決勝トーナメントで剣道道場日本一を競い合った。

○小学生(7月31日・540チーム)

準決勝には、昨年優勝の京都太秦少年剣道部(京都)をはじめ、今宿少年剣道部(福岡)、光龍館(香川)、東松館道場(東京)が勝ち上がった。京都太秦と今宿との対戦は、京都太秦が2-1で今宿を降し、連覇を懸けた決勝へ進出した。

各試合は小学生2分、中学生2分30秒の三本勝負で行われ、勝敗の決しない場合は引き分けとした。ただし、勝者数、総本数が同数の場合は、任意選出による代表戦によって一本勝負(時間無制限)で勝敗を決した。

光龍館対東松館の試合は、3-1で光龍館が勝利し、8年ぶりに決勝進出を決め、昨年準決勝で敗れた京都太秦との雪辱戦に臨んだ。



中学生団体決勝副将戦＝東松館道場・吉村（左）が昭島中央剣友会・永井の胴を攻める

▽決勝

先鋒戦、光龍館の福家と京都太秦の山本の対戦は、共に決まらず引き分け、次鋒戦は、光龍館の田村が京都太秦の片山から、残り数秒で面を奪って一本勝ちを収める。中堅戦（光龍館・長尾対京都太秦・井波）と副将戦（光龍館・大山対京都太秦・井尻）は共に光龍館の力強い攻めが目立ったが決まり手なく引き分けに終わり、大将戦は、開始と同時に京都太秦・奥野が出端小手を決めて先制するものの、終盤、光龍館・岩部が胴を決めて追いつき、そのまま試合終了、1-0で、光龍館が8年ぶりに優勝を手に入れた。

◎優勝Ⅱ光龍館・岩部広志監督

「昨年は準決勝で京都太秦に負けましたので、今年は絶対に決勝で勝つ、正しい剣道で楽しく勝つ、というのが目標でした。勝因は子供たちが、それぞれ自分の持ち味を精一杯出して、しっかり力を合わせて、最後まで気持ちを整えて、よく頑張ったということだと思います」

◎中学生（8月1日・479チーム）

準決勝に勝ち残ったのは、昨年優

勝の東松館道場（東京）のほか、福岡如水館（福岡）、明徳（高知）、昨年準優勝の昭島中央剣友会（東京）の4チーム。

東松館対如水館は、3-0で東松館が勝利し、昭島中央と明徳の対戦は、4-1で昭島中央が勝利した。その結果、決勝は昨年と同じ顔ぶれの東松館対昭島中央との対戦に決まった。

▽決勝

先鋒戦は、昭島中央・中嶋が開始1分に面を決め、東松館の豊島に一本勝ちしてリードしたが、次鋒戦では、東松館・綾部が昭島中央・大野から開始20秒で引き面を決めて一本勝ちし、勝敗を戻す。中堅戦は、終盤に入って、昭島中央・新名が小手を決めたが、直ぐさま東松館・中嶋が面を返して引き分けた。続く副将戦は、東松館の吉村が中盤で面を決めて一本勝ちし、昭島中央の永井を降した。大将戦の東松館・野稲と昭島中央・宇津木の試合は、共に決まらず引き分けに終わり、2-1で東松館が2連覇を達成した。

◎優勝Ⅱ東松館道場・榎本松雄監督

「連覇は全く考えていませんでし

た。優勝出来て驚いています。5人共、チームワークよくやってくれました。なかでも副将の吉村の出来がいつもより良かったと思います。昨日は東京都中体連の大会で準優勝で終わったので、その悔しさもあって、その分まで頑張ってくれたのだと思います。東京勢同士で決勝を戦えたことも、とても嬉しく思っています」

●個人戦

トーナメント戦で競われた。小学生とともに試合時間3分間の三本勝負。時間内に勝敗が決しない場合は、時間無制限の延長戦で争われた。

○小学生（8月1日・64名）

準決勝では、山下侑輝（熊本・相良少年剣友会）が松澤尚輝（茨城・結城尚武館）に胴と面で二本勝ち。井出和希（神奈川・戸塚道場）は角田純也（鳥根・北陽剣道少年団）を胴で降した。

決勝は、山下と井出の対戦。17センチで長身の山下は、遠間から面に跳ぶ。これに対し、井出は小手から胴の連続技で攻める。延長に入り、山下は井出の小手を抜いて面を決め、優勝を遂げた。



小学生個人決勝Ⅱ

山下侑輝（相良少年剣友会） 対井出和希（戸塚道場）

中学生個人決勝Ⅱ
内橋響希（東陶器春風館） 対加納誠也（和歌山砂山少年剣友会）
〔写真右〕面で先制する内橋（左）
〔写真左〕内橋は時間終了間際にも抜き胴を決め、見事に二本勝ち





小学生団体・優勝＝光龍館（香川）



中学生個人優勝＝内橋響希
（大阪・東陶器春風館）



小学生個人優勝＝山下侑輝
（熊本・相良少年剣友会）



中学生団体・優勝＝東松館道場（東京）

◎優勝Ⅱ山下侑輝選手

（熊本・相良少年剣友会）

「この大会には、初めて出場しました。とても大きな会場で、しかも見たことがないような人の数なので、緊張しました。絶対に優勝するとう気持ちでどんな人よりも大きくもって臨みました。こういう場面で力が発揮できて、本当に嬉しいです」

○中学生（8月1日・64名）

準決勝、内橋響希（大阪・東陶器

春風館）は中村奨吾（山口・剣愛

会）を胸で退けた。加納誠也（和歌

山・和歌山砂山少年剣友会）と伊藤

謙剛（神奈川・光武館道場）の対戦

は、伊藤が小手で先制するも、加納

が小手、面を決めて逆転勝ち。

決勝は内橋対加納。両者、面で攻

め合う展開が続く。試合開始2分、

内橋が面で先制。追いつきたい加納

は、終了間際に面を放つ。しかし内

橋はこれを胸で迎え撃ち、二本勝ち

した。



公開演武Ⅱ木刀による剣道基本技稽古法

二元立ち・笠原七海（東京・中3）
掛り手・楠本晃太（東京・小6）

◎優勝Ⅱ内橋響希選手

（大阪・東陶器春風館）

「初戦では、固くなってしまいました。みんなの応援を受けて、しだいに体が動くようになりました。いま2年生なので、来年も出場して優勝したいです。きれいな面で一本をとる選手を目指しています」

【大会結果】

▽小学生団体Ⅱ①光龍館（香川）

②京都大秦少年剣道部（京都）

③今宿少年剣道部（福岡）、東松館道場（東京）

▽中学生団体Ⅱ①東松館道場（東京）

②昭島中央剣友会（東京）

③福岡如水館（福岡）、明德（高知）

▽小学生個人Ⅱ①山下侑輝（熊本・相良少年剣友会）

②井出和希（神奈川・戸塚道場）

③松澤尚輝（茨城・結城尚武館）、角田純也（島根・北陽剣道少年団）

▽中学生個人Ⅱ①内橋響希（大阪・東陶器春風館）

②加納誠也（和歌山・和歌山砂山少年剣友会）

③伊藤謙剛（神奈川・光武館道場）、中村奨吾（山口・剣愛会）

日本武道館の単行本

著者の80年の生涯にわたる 剣道修練を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



写真提供 剣道時代

剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠 敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修練・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

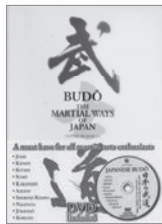
日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

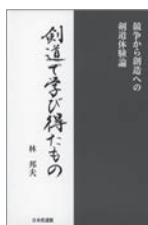


兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)



団体戦決勝先鋒戦＝石川・深井（左）が岩手・小林を押し出した

第23回全国都道府県中学生相撲選手権大会は8月5日、東京・両国の国技館で行われた。競技は都道府県対抗の団体戦と無差別、軽量級の2階級による個人戦で争われ、都道府県連盟が選出した代表選手が出場した。

団体戦は、前回優勝の石川県が決勝で岩手県を破って、2年連続5回目の優勝を果たした。

個人無差別級は菊池大史芽（青森）が、軽量級は番場偉史（青森）がそれぞれ初優勝を遂げた。

■団体戦

団体戦は予選を3回戦行い、勝数が多い上位16チームが決勝トーナメントに進んだ。勝数が同じ場合は、勝った人数による得点の上位から決め、さらに同点の場合は、同点決勝を行って16チームを決定した。

決勝トーナメントに進出したのは予選3勝の青森県、岩手県、宮城県、茨城県、東京都、長野県、石川県、京都府、鳥取県、高知県、鹿児島県の11都府県と、2勝の千葉県、神奈川県、静岡県、大阪府、兵庫県の5府県。

石川が連覇達成！

第23回全国都道府県中学生相撲選手権大会

▽決勝トーナメント1回戦

- 高知 2-1 神奈川
- 茨城 1-2 鳥取○
- 石川 2-1 大阪
- 青森 2-1 兵庫
- 鹿児島 2-1 静岡
- 宮城 1-2 東京○
- 京都 1-2 千葉○
- 岩手 2-1 長野

石川対大阪以外は、すべて大将戦で試合が決まる白熱した展開となった。昨年優勝の石川県、準優勝の青森県、予選全勝の高知県、鹿児島県は順当に準々決勝進出を決めた。

▽決勝トーナメント準々決勝

- 高知 1-2 鳥取○
- 石川 2-1 青森
- 鹿児島 0-3 東京○
- 千葉 1-2 岩手○

昨年の決勝戦の組み合わせ、石川

県と青森県がここでぶつかった。石川県・先鋒の深井が先制すると、青森県・中堅の菊池が上手投げで星を五分に戻す。大将戦に持ち越されたが、石川県の深沢が寄り切って、石川県が準決勝進出を決めた。

▽決勝トーナメント準決勝

- 鳥取 0-3 石川○
- 小林 寄り倒し 深井○
- 中原 引き落とし 佐藤○
- 松崎 押し出し 深沢○

先鋒戦、石川・深井は左を差しながら体を入れ替えると土俵際に詰め、寄り倒して先制する。中堅戦は、鳥取・中原が左で前禰まへみを取るが、石川・佐藤はその左を引きながら外すと中原は前に倒れて、あっさり決勝進出を決めた。大将戦も石川・深沢が一気の押し相撲で押し出した。



団体戦準決勝中堅戦=石川・佐藤（右）対鳥取・中原

- 東京 1-2 岩手○
 - 加藤 小手投げ 小林○
 - 戸田 寄り切り 高橋○
 - 鈴木 押し出し 三浦
- 先鋒戦は岩手・小林が土俵際まで



団体戦準決勝中堅戦=岩手・高橋（右）対東京・戸田

▽決勝トーナメント決勝

- 石川 3-0 岩手
 - 深井 押し出し 小林
 - 佐藤 寄り倒し 高橋
 - 深沢 寄り倒し 三浦
- 先鋒戦は、石川・深井が激しい押

寄せるが、東京・加藤も抵抗。小林は加藤の左腕を抱えるとそのまま小手投げで先制した。中堅は岩手・高橋が立ち合いから一気に寄り切って決勝。初の決勝進出となった。大将戦は東京・鈴木が意地を見せた。



団体戦決勝中堅戦＝石川・佐藤（手前）対岩手・高橋

してそのまま押し出して、石川が一勝を挙げる。中堅戦、後がない岩手・高橋は土俵際まで寄せられるも、渾身の上手投げ。しかし、石川・佐藤がこれをうまく堪えて、体勢の崩れた高橋を倒して、早くも優勝を決めた。大将戦は石川・深沢が盤石の相撲で寄り倒して、連覇に花を添えた。

●優勝Ⅱ片岡幸博監督（石川県）

今年の石川県は予選から危なげな

い試合が続いたように見えた。

「相撲はやつてみないとわかりませんし、決してうちが抜けているわけでもありません。試合前は緊張感があつて、予選1回戦が鍵でした」

とはいうが、予選1回戦は全勝して快勝だった。

「立ち上がりは難しいです。選手の動きも固かったです」

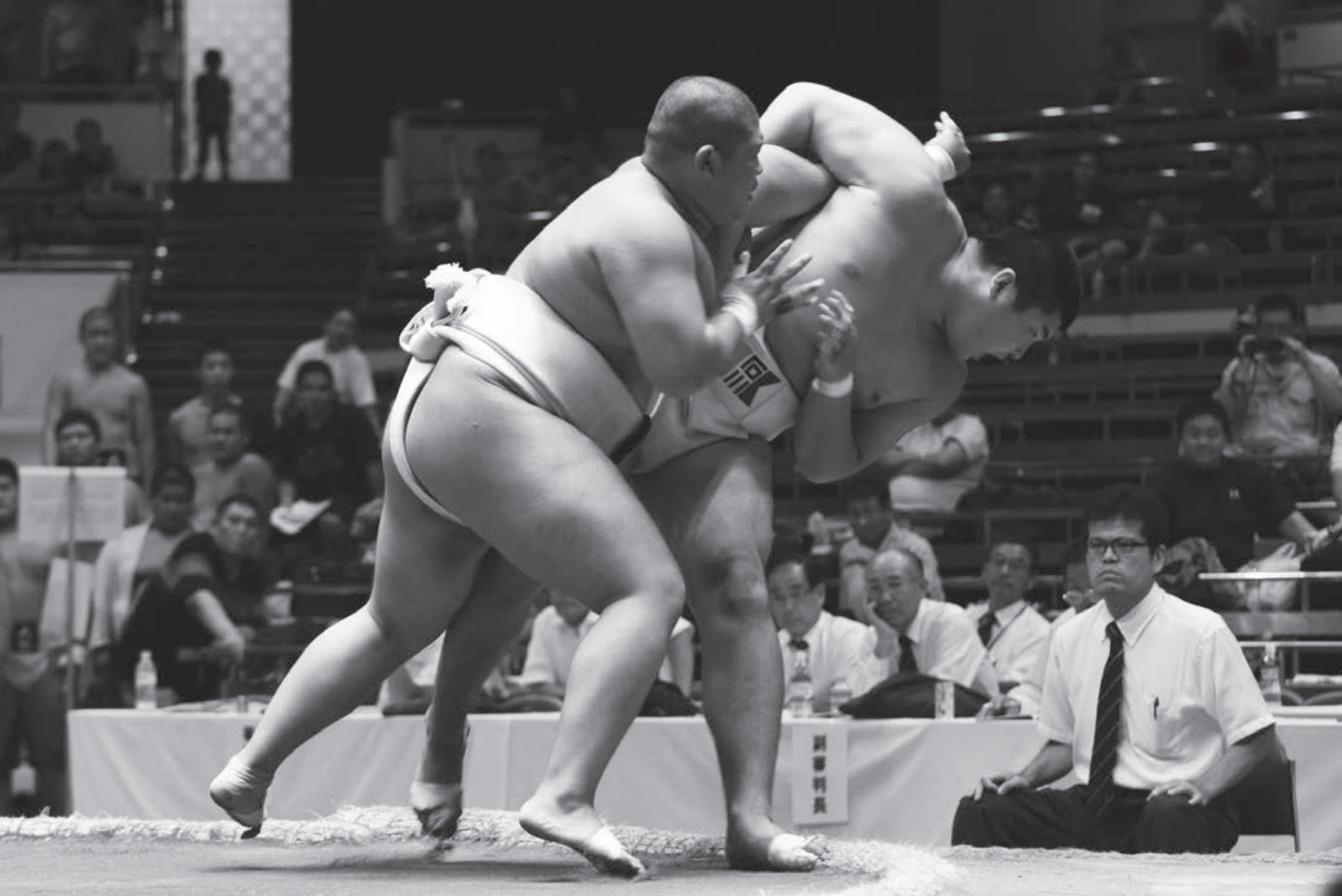
本大会に向けた稽古量は十分なものとはいえなかったという。



団体優勝＝石川県（左から深沢、佐藤、深井）

「今年は学校の行事が重なり、なかなか全員揃つての稽古ができませんでした。とにかく試合はのびのびやれと言つて送り出しました」





個人戦無差別級決勝＝菊池（左）が深井を寄り倒した



個人戦無差別級準決勝＝深井（奥）対佐藤

■個人戦無差別級

無差別級には団体予選で2勝以上あげた62名が出場。トーナメント戦で争った。

小学4、5年時にわんぱく横綱となつた矢ヶ部克将（大阪）はベスト16で敗れる波乱。その他、深沢立樹（石川）、菊池大史芽（青森）など8選手がベスト8に勝ち進んだ。

準々決勝、優勝候補と思われた深沢が志賀秀登（福島）に突き落としで敗れる。菊池は順当に勝つて志賀との準決勝へ。もう一方のブロックからは、佐藤淳史、深井拓斗のいずれも石川の選手が勝ち上がった。

▽準決勝

○菊池 送り倒し 志賀
菊池が立ち合いから志賀を一気に土俵際に寄せるが、志賀がうまく体を入れ替えて、小手投げの姿勢。菊池はこれを凌ぐと、志賀の後ろについて送り出しの形になる。志賀が逃げようとすると、菊池はこれを逃さず、最後は送り倒して、菊池が決勝進出を決めた。

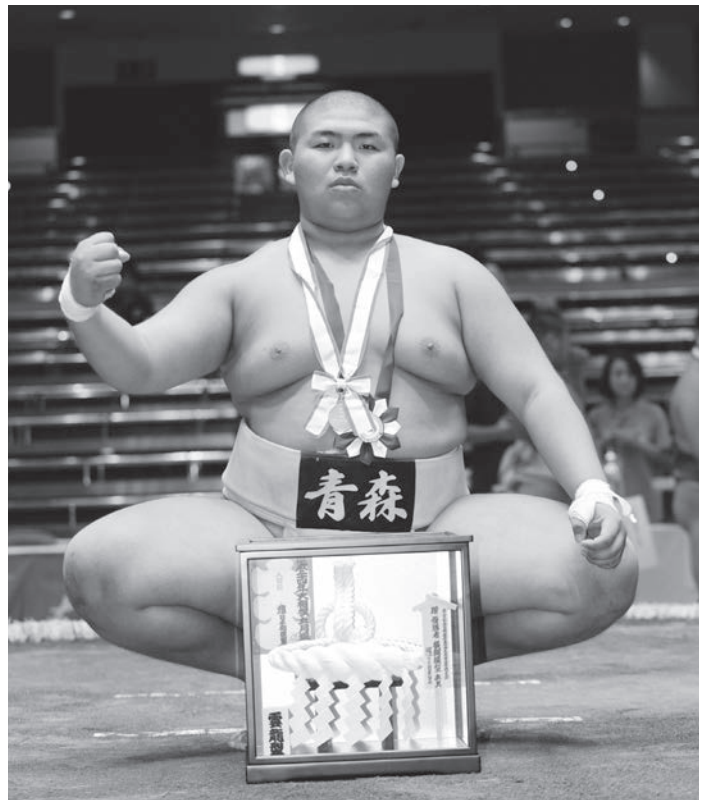
○深井 上手投げ 佐藤
互いに土俵中央で攻防を展開するが、左四つに組み合うと、深井が力強い投げを打つて、佐藤は堪えきれず一回転。同門対決は深井に軍配が上がつた。

▽決勝

○菊池 寄り倒し 深井
立ち合い、菊池は喉輪で深井をかちあげると素早く諸差しに。土俵際に寄ると、深井が捨て身の投げを打つが、菊池が深井の崩れた体を押すと、深井は土俵下に落ち、菊池の初優勝が決まった。

●優勝Ⅱ菊池大史芽選手（青森）

菊池は小学4年生で冬の全国大会に優勝。小学6年生ではわんぱく横



個人戦無差別級優勝＝菊池大史芽（青森）

綱に輝いた。今回はそれに続く個人種目の全国制覇となった。

「練習してきた成果が出ました」

「昨年2年生ながら出場し、団体準優勝に貢献。個人でも無差別級に出場したが初戦敗退だった。」

「去年よりも緊張しました。でも誰とやっても変わらずに自分の相撲が取れました」

通算3度目の全国制覇。将来が楽しみな選手である。

■個人戦軽量級

軽量級には事前登録された各都道府県から1名ずつの46選手（滋賀県は不参加）が出場し、トーナメント戦で競われた。

三苦慶大（大分）は48kgと出場選手中最軽量ながら、団体戦では大将を務める選手。団体予選では見事に2勝の成績をあげたが、個人戦軽量級に出場。

自分より体格の大きい選手を相手



個人戦軽量級準決勝＝三苦（左）が番場に体を預けて倒すが、軍配は番場

に次々と勝ち上がり、ベスト8に進出した。準々決勝では竹林将太（京都）を下し投げで破ると、準決勝では番場偉史（青森）と対戦。

三苦は小さい体を活かして立ち合いかから番場の懐に潜り込むが、番場もこれを嫌って、三苦の右腕を取って、背中側に回して投げを打つ。これに三苦は一回転するもなんとかこらえて、体を番場に預け、最後は番場が土俵に転がった。しかし、三苦

の背中が先に土俵に着いていたというので、軍配は番場になる。

三苦の健闘に会場から大きな拍手があがった。

決勝は番場対石川学（茨城）。番場の鋭い押しに石川は土俵際に寄せられるが、石川も徳俵を上手く使って、円を描くように体を捌いて、番場の攻めをかす。一瞬の隙を見つけた石川がはたき込むが、番場はこれを堪えると、石川の背中側にうま



個人戦軽量級決勝＝番場（左）が石川を送り出して優勝を決めた



個人戦軽量級優勝＝番場偉史（青森）

く回り込む。背中をとられた石川は何もできずにそのまま送り出されて、番場が軽量級優勝を果たした。

●優勝Ⅱ番場偉史選手（青森）

「嬉しいですね。優勝するつもりで出場しました。昨年も出場しましたが、初戦敗退でした。その悔しさがあったので、1年間一生懸命稽古しました。来年からは高校に入りますが、稽古がきついで、相撲を続けるかは悩んでいます」

●3位Ⅱ三苦慶大選手（大分）

「悔しいですが、3位なので嬉しさもあります。相撲は5歳から始めました。父の友人に誘われて、初めは

『せん』と断っていましたがお菓子の誘われて気付いたらまっています。これからも相撲を続けます」

【大会結果】

■団体戦Ⅱ①石川県（2年連続5回目）②岩手県③鳥取県、東京都

■個人戦

○無差別級Ⅱ①菊池大史芽（青森）

②深井拓斗（石川）③佐藤淳史（石川）、志賀秀斗（福島）

○軽量級Ⅱ①番場偉史（青森）②石川学（茨城）③三苦慶大（大分）、千覚原圭亮（大阪）

當眞嗣斗（那覇）、 3年連続わんぱく横綱！



6年生決勝＝當眞（左）が新井を寄り倒す

第28回わんぱく相撲全国大会（主催Ⅱ日本相撲協会、東京青年会議所）は7月29日、東京・両国の国技館で開かれ、全国の予選を勝ち抜いた小学4～6年生の代表各133名が出場して、わんぱく横綱を争った。

試合は各学年ごとにトーナメント形式で行われた。4、5年生を連続して臨んだ6年生の當眞嗣斗（那覇）が史上4人目となる3連覇を達成した。5年生は下橋颯斗（富士山静岡）が、4年生は池田亮（七尾）がそれぞれ初優勝を飾った。

また、チームごとの4、5、6年生の勝ち数を合計して争われた団体戦は富士山静岡が初優勝した。

■6年生

一昨年から連覇してこの大会に臨んだ當眞嗣斗（那覇）は準々決勝、



6年生準決勝=當眞（右）対石崎



昨年5年生横綱土俵入り=當眞嗣斗（那覇）



昨年4年生横綱土俵入り=下村湧偉（十和田）

2年連続で退けている春山万太郎（奄美大島）と対戦。當眞は立ち合いで変化して、あっさり春山に土をつけた。続く準決勝も石崎涼馬（大阪城）を相手にはたき込んで決勝進出を決めた。

逆のブロックから勝ち上がったのは昨年も決勝に進出した新井宥里（東京選抜）。2年連続で同じ顔合わせとなった。立ち合い、當眞が変化して新井がはたき込まれたかに見えるが、立ち合いで両者が手をしつかりとつけておらず待ったがかかる。仕切り直しの一番、互いに正面から当たると、体格に勝る當眞が新井を一気に土俵際まで寄せて、最後は寄り倒して3連覇を決めた。

▼優勝Ⅱ當眞嗣斗選手（那覇）

この大会に限っていえば、春山、新井らの強豪を相手にすると、変化してはたき込む戦いが目立った當眞だったが、その点について聞いた。

「当たってこける気がして変化してしまいました。引く気はなかったんですが、体が勝手に反応しました」
3連覇のプレッシャーは相当あったという。

「正直、4年生のときは簡単に勝てました。しかし、学年が上がるにつれて、相手の強さが増してきて、今回は一番苦しかったです」

将来は角界入りを目指す。
「中学を卒業したらすぐに力士になりたいです。まだまだ身長も体重も



5年生決勝＝下橋（左）が志戸を引き落とす



5年生準決勝＝志戸（右）対川淵

力も足りないので、もう一回り大きくなりたいですね。また、スピードもスタミナもまだまだなので、もっと稽古します」

小学6年生ながら178cm 145kgの恵まれた体格を持ちながら、「もう一回り」とは、任んでる世界の違いをちよっと感じた。

■5年生

昨年のわんぱく横綱、下村湧偉（十和田）がベスト8を前に、塩崎優（松山）に敗れる波乱の展開。準々決勝でその塩崎を破った下橋颯斗（富士山静岡）が準決勝も勝って決勝へ。

志戸俊輔（バンペイユ）は準々決

勝で昨年3位の田中裕隆（唐津）を破ると、続く準決勝では、昨冬の全日本小学生優勝大会の覇者、川淵一^{かわぶちかず}意（大阪城）を引き落として決勝進出を決めた。

決勝、立ち合いからうまく志戸が下村の背後に回るが、下村は体をひねってこれかわす。今度は正面から受け止めた下村は、志戸を何度も引き落とそうとするが、志戸はこれを堪える。下村が土俵際に寄せると志戸が徳俵で踏ん張り、押し返すところを下村が上から押さえつける

と、志戸は土俵に跪いた。

▼優勝Ⅱ下橋颯斗選手（富士山静岡）

「とっても嬉しいです。でも優勝する自信がありました。他の人は弱そうに見えました。週に3回、柔道の稽古をしていて、相撲の稽古は週に1回です。相撲では白鵬、柔道では穴井隆将選手が、強いから好きです」

■4年生

2番目に重い子と40kgの差をつけて出場選手中最重量の本多力也（那須野ヶ原・110kg）は3回戦で柳澤翼（足立）に敗退。その柳澤も準々決勝で池田亮（七尾）に敗れて、池田は勢いに乗ったまま決勝進出。

マンガ・武道のすすめ

大人も子どもも読んで読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

相撲は塔尾武夫、住吉和則、下村勝彦、
安井和男の4氏を掲載！

B5判・236頁・1050円

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147

決勝はカフレ・ジオバニ（茨城C）との対戦。立ち合いから突きで土俵際に追い込まれた池田だったが、両下手を掴むと、吊り上げて体を入れ替え、そのまま寄り切った。

▼優勝⇨池田亮選手（七尾）

「こういう大会で優勝したのは初めてで嬉しいです。まわしをとって攻める自分の持ち味を活かしたいと思っていました」

池田選手の叔父は竹縄親方（元関脇・栃乃洋）。何か教えられているのかと思えば……

「たまにしか会わないので、あまり教えてもらったことはないです」とのこと。関取の血が流れる池田選手の今後に期待したい。



4年生決勝=池田（奥）がカフレを吊り上げて寄せ、寄り切った

【大会結果】

▼6年生

- ▽横綱⇨當眞嗣斗（那覇）
- ▽大関⇨新井有里（東京選抜）
- ▽関脇⇨石崎涼馬（大阪城）

津澤太一（宇城）

▼5年生

- ▽横綱⇨下橋颯斗（富士山静岡）
- ▽大関⇨志戸俊輔（バンベイユ）
- ▽関脇⇨川淵一意（大阪城）

草野直哉（宇城）

▼4年生

- ▽横綱⇨池田亮（七尾）
- ▽大関⇨カフレ・ジオバニ（茨城C）
- ▽関脇⇨清水市隆（長崎C）

山本剛瑠（京都）

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道 剣道 弓道 相撲 空手道 合気道
少林寺拳法 なぎなた 銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!

日本の武道

日本武道館 編



(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすずめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」(武道憲章英訳文)「ごも武道憲章」
カラー口絵(日本武道館・9武道+日武協30年のあゆみ)

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え：
村田直樹 講道館図書資料部長
大保木輝雄 埼玉大学教授

第4節 武道の魅力……………

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授

第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授

第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者

第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟

第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟

第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟

第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟

第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟

第6節 合気道…………… (財)合気道連盟

第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟

第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟

第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………

第2節 全国都道府県立武道館協議会……………

第3節 日本武道学会……………

第4節 日本古武道協会……………

第5節 武道学科等設置大学 ① 国際武道大学 ② 国士館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………

第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………

第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………

第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授

第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授

第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

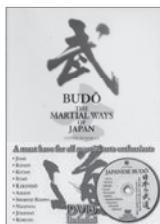
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



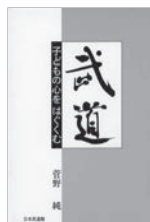
今、なぜ武道か
—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
(四六判・上製・370頁)



BUDŌ:
THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道
子ども心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
(四六判・上製・410頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
(四六判・上製・376頁)

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー！
取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



(B5判・236頁)

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著



相撲は4名の先生方を紹介

武道各種目の概要を見開きで解説

塔尾武夫 現代相撲かくあるべし 下村勝彦 静岡焼津 さかの町のわんぱく力士
住吉和則 相撲好き遺伝子を守る! 安井和男 先輩部長が育てる侍力士



ロンドンオリンピック柔道メダリスト
後列左から中矢、平岡、海老沼、西山
前列左から上野、松本、杉本

柔道日本代表が帰国

ロンドンオリンピック柔道日本代表選手団が8月6日に帰国し、新東京国際空港で吉村和郎全日本柔道連盟強化委員長、篠原信一男子監督、園田隆二女子監督、メダリスト7名が記者会見を行った。

帰国ロビーには約500名が詰めかけ、柔道日本代表を出迎えた。ロビーに選手たちが姿をあらわすと、大きな拍手でこれを迎えた。

記者会見ではまず吉村委員長が大会を総括した。

「代表が決まって2カ月という短い中で選手はよくやってくれました。調整もうまくいっていましたが、こういう結果になってしまったのは、どこかに欠点がありました。負ける時には必ず負ける原因があります。今回の結果を検証して再出発したいと思います」

続いて、篠原監督が男子の戦いを振り返った。

「合宿のあり方、代表が決まるまで

の大会のあり方など、いろいろなところに問題があったと思います。また、全体的に体力面で差がありました。最近の外国人選手はバテる選手がいなくなりました。今後は体力面、技術面の強化をしていかなければいけないと思いました」

さらに園田監督が女子について一

「48kg級から2日間メダルがなかった分、後にいけばプレッシャーもかかってくるでしょうし、その中で勢いを掴めなかったのかと思います。この3年間世界選手権でメダルをとってきて、今回、これだけのメダルしか取れなかった原因を検証して、リオに繋げていきたいと思っています」
委員長と監督が退席の後、メダルを獲得した7選手がオリンピックを振り返った。

◆男子

▽60kg級 平岡拓晃(了徳寺学園職)

「前回大会よりは一歩前進できたと思います。世界選手権も経験し、オ



松本薫選手を出迎える子どもたち



多くのファンが出迎えた

リンピックの重みを実感しました」
 ▽66kg級Ⅱ海老沼匡（パーク24）
 「銅メダルという結果に悔しさもありませんが、最後まで諦めずに戦えてよかったですと思います。オリンピックは一日1階級なので、世界選手権とは違う緊張感がありました」
 ▽73kg級Ⅱ中矢力（東海大）
 「目標としていた色とは違いますが、メダルを持ち帰ったのは意味があることだと思うので、日本代表としてメダルを取れてよかったです」
 ▽90kg級Ⅱ西山将士（新日本製鐵）
 「出る試合は全部勝つつもりで出ているので、負けたことが悔しいです」

▽57kg級Ⅱ松本薫（フォーリーフジャパン）
 「自分一人のメダルではなくて、これまで一緒に頑張ってきた日本柔道の金メダルだと思います。オリンピックは帰ってきた時にカメラがいっぱいいるので違うなと思いました」
 ▽63kg級Ⅱ上野順恵（三井住友海上）
 「緊張はしましたが、畳が上がってしまえばいつもと同じでした。ただ、情けない試合をしてしまったので申し訳ない気持ちで一杯です」
 ▽78kg超級Ⅱ杉本美香（コマツ）
 「最終日なので皆の分まで金メダルを取りたいと思っていました。このメンバーで戦えてよかったです」

【大会結果】

| ◆男子 | 金 | 銀 | 銅 | 日本選手 |
|---------|------------------|---------------|----------------------------------|--------------------|
| 100kg超級 | リネール（フランス） | ミハイリン（ロシア） | シウバ（ブラジル） テルツァー（ドイツ） | 上川大樹（京葉ガス）＝2回戦敗退 |
| 100kg級 | カイブラエフ（ロシア） | ナイダン（モンゴル） | ペーテルス（ドイツ） グロル（オランダ） | 穴井隆将（天理大職）＝2回戦敗退 |
| 90kg級 | ソン（韓国） | ゴンザレス（キューバ） | 西山将士（新日本製鐵） イリアディス（ギリシャ） | |
| 81kg級 | キム（韓国） | ビショフ（ドイツ） | パロワフォルティエ（カナダ） ニフォントフ（ロシア） | 中井貴裕（流通経済大）＝5位 |
| 73kg級 | イサエフ（ロシア） | 中矢 力（東海大） | サインジャルガル（モンゴル） ルグラン（フランス） | |
| 66kg級 | シャウダチュアシビリ（グルジア） | ウングバリ（ハンガリー） | 海老沼匡（パーク24） チョ（韓国） | |
| 60kg級 | ガルスチャン（ロシア） | 平岡拓晃（了徳寺学園職） | キタダイ（ブラジル） ソピロフ（ウズベキスタン） | |
| ◆女子 | | | | |
| 78kg超級 | オルティス（キューバ） | 杉本美香（コマツ） | ブライアント（イギリス） トン（中国） | |
| 78kg級 | ハリソン（アメリカ） | ギボンズ（イギリス） | アギアル（ブラジル） チュメオ（フランス） | 緒方亜香里（筑波大）＝2回戦敗退 |
| 70kg級 | デコス（フランス） | ティーレ（ドイツ） | アルベール（コロンビア） ボッシュ（オランダ） | 田知本遥（東海大）＝7位 |
| 63kg級 | ゾルニール（スロベニア） | シュー（中国） | 上野順恵（三井住友海上） エマヌ（フランス） | |
| 57kg級 | 松本 薫（フォーリーフジャパン） | カプリオリュ（ルーマニア） | マルロイ（アメリカ） バヴィア（フランス） | |
| 52kg級 | アン（北朝鮮） | ベルモイ（キューバ） | フォルチニティ（イタリア） ニェト（フランス） | 中村美里（三井住友海上）＝2回戦敗退 |
| 48kg級 | メネゼス（ブラジル） | ドウミトル（ルーマニア） | ファンズニック（ベルギー） チェルノヴィツキ（ハンガリー） | 福見友子（了徳寺学園職）＝5位 |

* 佐藤伸一郎全日本柔道連盟広報委員によるロンドンオリンピックの詳細は次号に掲載します。

待望の 単行本化 嘉納治五郎と講道館の高弟をはじめとする 日本人の手による柔道の国際的普及の歴史



柔道の国際化

— その歴史と課題 —

講道館柔道を創始し、自ら柔道を世界に広めるため尽力した嘉納治五郎。嘉納の意思を受けて海外雄飛した、講道館を代表する高弟たち。彼らは如何に、どのような思いで、普及に取り組んだのか。数々の資料を繙き、柔道が世界的な競技となるまでの先達の足跡をたどる。そして、そこから見えてきた運動文化の国際的普及における課題とは。

(四六判・上製・552頁)

財団法人講道館 図書資料部長

村田直樹 著

題字 講道館名誉館長・嘉納行光



第1章 普及への意思

柔道史の原点

欧州教育事情視察

第2章 海外への進出

米国大統領の入門

新大陸へ派遣第2号

異種格闘技に生きた前田光世

英国柔道の基礎―武道会

武道会を訪れた嘉納と高弟会田

小泉が語る英国柔道史

仏蘭西への道

メトード・カワイシとは何か

駐仏日本国大使 杉村陽太郎

続々と仏蘭西へ

海外より見た柔道―独逸通信

東洋への進出

異文化理解の容易な道

第3章 国際柔道連盟の結成

国際柔道連盟設立の前夜

嘉納逝き連盟成らず

欧州から国際柔道連盟の結成

講道館長、国際柔連会長に就任

世界柔道選手権大会開催

東京五輪招致成功

東京五輪と正式種目柔道

パリの仇

体重別に勝ち、無差別に散る

第4章 道とスポーツ

日本の後退 欧州の前進

変わり行く柔道

不易流行

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



日本の武道

日本武道館 編

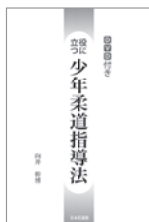
(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)

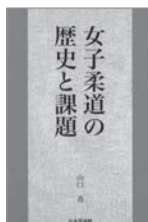


役に立つ 少年柔道指導法

講道館道場指導部課長

向井 幹博 著

(A5判・並製・DVD付・414頁)



女子柔道の 歴史と課題

筑波大学大学院准教授

山口 香 著

(四六判・上製・412頁)



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



柔道は 素晴らしい

柔道塾紀柔館館長

腹巻 宏一 著

(四六判・上製・310頁)



今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



嘉納治五郎師範に学ぶ

講道館図書資料部長

村田 直樹 著

(四六判・上製・292頁)